

國學院大學學術情報リポジトリ

平成27(2015)年度

國學院大學博物館・國學院大學學術資料センター年報

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://k-rain.repo.nii.ac.jp/records/1941

平成27(2015)年度

國學院大學博物館
國學院大學学術資料センター
年報

國學院大學博物館
國學院大學学術資料センター

2017

目 次

第Ⅰ章 概 要	1
1 沿 革	1
2 組織・施設	2
3 教 職 員	2
4 平成27年度の主な取り組み	4
第Ⅱ章 学術資料センター	6
1 資料収集・貸借	6
2 整理・保管	7
3 調査・研究	7
第Ⅲ章 博 物 館	13
1 展示・公開	13
2 教育普及	26
第Ⅳ章 刊 行 物	30
1 定期刊行物	30
2 図 録	31
3 報 告 書	31
統計資料	32

例 言

1. 本年報は、平成27（2015）年度に國學院大學博物館、学術資料センターが実施した事業の概要を報告するものである。
2. 國學院大學における平成27（2015）年度の大学ミュージアム活動は、主に資料収集・整理保管・調査研究の諸機能を学術資料センターが担い、主に展示公開、教育普及事業を國學院大學博物館にて実施した。本年報では、國學院大學博物館、学術資料センターの事業をまとめ、大学ミュージアム活動の全容を報告する。
3. 本年報に掲載したデータの収集と作成にあたっては、小倉健（研究開発推進機構事務課主査）、乾剛夫、黒沢龍生、長泉勝生（社団法人渋谷区シルバー人材センター）の協力を得た。なお、貸与・借用をはじめとする資料利用状況の整理と一覧表の作成は、渡邊亜佑香（元学術資料センター臨時職員）が担当した。また、受贈図書の整理と一覧表の作成は渡邊亜佑香が担当した。
4. 本年報は、内川隆志（博物館・学術資料センター教授）が編集し、第Ⅰ章を深澤太郎（博物館・学術資料センター准教授）、第Ⅱ章を内川隆志と大東敬明（博物館・学術資料センター准教授）、第Ⅲ章・第Ⅳ章を網谷哲成（学芸員）が執筆した。

第 I 章 概 要

1 沿革

大学ミュージアムの淵源 國學院大学の大学ミュージアム機能を担っている國學院大學博物館と、学術資料センター（旧学術資料館）の創立は、後に本学教授となる学部生の樋口清之氏が、出身地である奈良県内採集の考古資料約4,000点を大学に寄贈した昭和3（1928）年に遡る。当初は、校舎の一角を「考古学陳列室」と称し、約30坪の小規模な展示施設として発足した。創設に当たっては、私邸内の「有為寮」に樋口氏を寄宿させていた桑原芳樹皇典講究所専務理事の尽力があり、樋口氏の父である樋口清二愛媛県立大洲中学校長や、愛媛県出身の実業家である新田長次郎氏の篤志も寄せられた。

陳列室は、昭和7（1932）年に図書館から国史研究室に移管され、植木直一郎教授の命名によって「考古学資料室」と改称。同時に、学部を卒業して研究室助手となった樋口氏が資料室主任に任ぜられたことで、今日に至る大学ミュージアム組織の基礎が固まる。資料室は、鳥居龍藏教授が創設した上代文化研究会（後の國學院大學考古學會）の拠点でもあり、ここから多くの考古学徒が巣立っていった。

考古学資料館と神道資料館 降って昭和27（1952）年には、前年に制定された博物館法の指定する博物館相当施設となり、学芸員資格を取得するための博物館学課程に必要な博物館実習を、学内で実施することができる体制が整った。また、昭和50（1975）年には、「考古学資料館」と改称した。

一方、本学の母体であった皇典講究所では、明治33（1900）年に礼典調査会を設置し、昭和10（1935）年には「参考館」の設置計画も提起されていた。しかし、これは実現に至らず、本学創立80周年記念事業として、昭和38（1963）年に「神道学資料室」が開設されたのである。同資料室は、神道関連資料の研究公開事業を担うものであり、昭和53（1978）年に「神道資料展示室」、次いで平成2（1990）年に「神道資料館」と改称した。

組織の再編 考古学資料館と神道資料館は、旧日本文化研究所が研究開発推進機構へと拡大・再編された平成19（2007）年に、同機構所属の学内共同利用研究機関たる「学術資料館」として合併し、新たなスタートを切った。また、平成20（2008）年には、常磐松の地に落成したAMC（学術メディアセンター）棟へ移転し、文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業「モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践」（平成19年度～平成23年度）によって設置された伝統文化リサーチセンターの展示公開施設「伝統文化リサーチセンター資料館」にて、館蔵考古資料・神道資料と、校史・学術資産センター所管校史資料の公開を開始した。

更に、平成25（2013）年4月からは、展示公開施設を「國學院大學博物館」と名付け、学術資料館を「学術資料センター」と改めることになった。なお、平成26（2014）年度末には、國學院大學博物館を研究開発推進機構内の研究機関として位置付ける規程が制定され、名実ともに大学ミュージアム機能の充実が図られつつある。

2 組織・施設

事業 國學院大學博物館は、博物館法（昭和26年12月1日法律第285号）に準拠し、日本文化に関する学術資料を広く調査研究・収集・保管・展示し、学術研究の公開・発信を行い、もって研究教育の支援及び社会貢献に資することを目的とする。また研究開発推進機構に設けられた学内共同利用研究機関である学術資料センターとともに、校史・学術資産研究センターや、学部、大学院、図書館などの諸機関と連携しつつ、博物館収蔵資料を活用した学術研究等や、展示公開事業を推進している。

組織 博物館には、館長以下、専任教員・学芸員・研究員等（客員研究員・ポストドク研究員・研究補助員）を置き、平成28（2017）年度から副館長職も設けた。また、学術資料センターには、考古学資料館部門と神道資料館部門の2部門を設け、それぞれ考古・民俗資料と神道資料を活用した研究教育事業の推進を分担している。博物館長を兼ねているセンター長のもとには、各部門の運営を担う専任教員・兼任教員・客員教員・研究員等・臨時雇員と、学外機関などに在籍する共同研究員を組織し、各部門が個別に立案した研究事業を実施すると共に、学芸員と連携して特別展・常設展などの展示公開活動や教育普及事業に当たっている。また、当センターの事務については、学術メディアセンター事務部の研究開発推進機構事務課が所管している。なお、資料の寄贈・購入・寄託等に際しては、対象資料の専門研究者を交えての資料評価委員会を招集する。

施設 博物館の専用施設としては、渋谷キャンパス AMC 棟地下の展示室 1613.99㎡、博物館事務室 162.00㎡、資料展示準備室 81.00㎡、資料保存撮影室 36.75㎡、映像資料保存室 30.15㎡などが設けられている。また、考古収蔵庫 303.87㎡、神道・校史収蔵庫 277.88㎡のほか、資料調査室 1（保存修復）、資料調査室 2（考古）、資料調査室 3（神道）や、地上 1 階の学術資料センター研究室 1（考古）、同研究室 2（神道）などがある。

3 教職員

平成27年度の教職員 國學院大學博物館長・学術資料センター長の両職は、平成26（2014）年12月14日に吉田恵二教授が逝去されたため、井上順孝研究開発推進機構長による職務の代行を経て、平成27（2015）年度より笹生衛教授が担当することとなった。また、4月1日より「國學院大學博物館規程」が施行されることとなり、改めて専任教員・学芸員・研究員等が配置された。専任教員は、学術資料センターと、校史・学術資産研究センターの専任教員を以て充てている。なお、当年度より、新規程に従って研究開発推進機構事務課の専門職員たる嘱託学芸員として、新たに石井匠・網谷哲成・陣内理良を迎えた。

(1) 博物館

館長	笹生 衛 (兼担教授、神道文化学部教授) 考古学・宗教史学
専任教員	内川隆志 (教授) 博物館学・考古学 大東敬明 (准教授) 神道史学 深澤太郎 (准教授) 考古学 渡邊 卓 (助教) 日本上代文学・国学 鈴木聡子 (特任助教) 神道史学 高野裕基 (特任助教) 神道史学・博物館学
嘱託学芸員	網谷哲成 神道史学 石井 匠 芸術考古学 陣内理良 歴史学
研究員等	天田顕徳 (研究補助員) 宗教学 大村冬樹 (研究補助員) 考古学

(2) 学術資料センター

センター長	笹生 衛 (兼担教授、神道文化学部教授) 考古学・宗教史学
-------	-------------------------------

【考古学資料館部門】

代表者	笹生 衛 (兼担教授、神道文化学部教授) 考古学・宗教史学
専任教員	内川隆志 (教授) 博物館学・考古学 深澤太郎 (准教授) 考古学
兼任教員	小川直之 (兼担教授、文学部教授) 民俗学 黒崎浩行 (兼担准教授、神道文化学部准教授) 宗教学 笹生 衛 (兼担教授、神道文化学部教授) 考古学・宗教史学 朝倉一貴 (兼担助手) 考古学
客員教員	古谷 毅 (客員教授、東京国立博物館学芸研究部主任研究員) 考古学 柳田康雄 (客員教授、元九州歴史資料館副館長) 考古学
研究員等	阿部常樹 (客員研究員) 動物考古学 鳥越多工摩 (客員研究員) 考古学 伊藤大祐 (ポスドク研究員) 博物館学・民俗学 北澤宏明 (研究補助員) 考古学
共同研究員	荒井祐介 (丸山製作所)、石井 匠 (國學院大學博物館)、石川岳彦 (東京大学大学院)、 粕谷 崇 (渋谷区教育委員会)、加藤元康 (新潟県埋蔵文化財調査事業団)、栗木 崇 (熱 海市教育委員会)、齋藤しおり、大工原 豊 (國學院大學)、中島将太 (井草考古学研究所)、

中村 大（立命館大学）、中村耕作（國學院大學栃木短期大学）、平本謙一郎（インド大使館）、山口 晃（船橋市教育委員会）

臨時雇員 石垣絵美、石川岳彦、伊藤新之輔、入江直毅、大山晋吾、尾上周平、倉橋祐真、黒川寧子、佐賀桃子、佐藤拓也、新川実里、杉山章子、鈴木志穂、高田大幹、中川幹啓、波田尚大、馬場羽瑠桂、藤好史都、吉澤花織

【神道資料館部門】

代表者 笹生 衛（兼担教授、神道文化学部教授） 考古学・宗教史学

専任教員 大東敬明（准教授） 神道史学

鈴木聡子（特任助教） 神道史学

兼任教員 岡田莊司（兼担教授、神道文化学部教授） 神道史学

加瀬直弥（兼担准教授、神道文化学部准教授） 神道史学

研究員等 吉永博彰（ポストク研究員） 神道史学

臨時雇員 木村大樹、富田谷桃子

（3）事務局（学術メディアセンター事務局 研究開発推進機構事務局課）

部長 及川 聡

次長 古山悟由（図書館事務課長兼務）

次長 堀内弘行（情報システム担当）

課長 杉本久男

主幹 小倉 健

主任 小平浩衣

書記 須田佳代、相川由紀、志水志保、織田泰輔

嘱託学芸員 石井 匠、網谷哲成、陣内理良

4 平成27年度の主な取り組み

平常業務 平成27（2015）年度は、従前計画の1回の特別展、7回の企画展、9回の特集展示のほか、教育普及事業としてミュージアムトーク、ワークショップ等を実施するとともに、西南学院大学博物館（福岡県）と大学博物館間の研究協力に関する協定による相互貸借特集展示を6回実施した。

ミュージアム連携事業 また、昨年度に引続き、平成27年度文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択され、当館を中核館とする渋谷区・山種美術館・東洋文庫との連携により「東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業」を推進した。これは、國學院大學博物館地域共働連携事業実行委員会（実行委員長・赤井益久学長）を組織し、連携館の相互交流を活かし、学術研究の向上、地域振興、人材育成、生涯教育等に寄与することを目的としたものである。具体的には、

「地域・渋谷の文化を発信する」・「多言語化 博物館における多言語サービスの充実」・「博物館を核にした地域の文化交流」・「日本文化研究拠点の国際連携」・「日本文化を体験・実感する」の5事業を推進し、各種講座・ワークショップ・国際シンポジウムなどのイベントや、博物館・美術館の多言語対応、デジタルデータの蓄積等を行った。詳細については、同事業の報告書も参照されたい（國學院大學博物館地域協働連携事業実行委員会・國學院大學 2016）。

新WEBページ・リーフレット公開 従来、大学WEBサイト内にあった当館のページは、深い階層に設けられているとともに、多言語による発信には不向きなものであった。そこで、先述した文化庁の支援によるミュージアム連携事業の一環として、新たにWEBページを構築することとした。とりわけ、将来的なインバウンドの誘致も見据えて多言語化に注力し、平成27（2015）年12月に一般公開が可能となった。これにあわせて、当館のリーフレットも作成し、来館者アンケートに対する頒布品として日本語版・英語版を頒布している。

研究協定 平成28（2016）年3月8日には、國學院大學研究開発推進機構とイギリス・セインズベリー日本藝術研究所（Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures）間で、双方の相互協力による学術研究を発展させるため、平成21年7月6日に締結された覚書の更新として、研究協定を締結した。

貴重資料レプリカ製作 昨年度は、大学事務局の支援を受けて、館蔵の伝滋賀県大岩山遺跡出土銅鐸（弥生時代中期）・長野県片山遺跡出土挙手人面土器（古墳時代前期）・神像（室町時代）についてレプリカを製作した。これらは、学内・館内における展示活用はもとより、学外においても当館への来館を誘うツールとして活用されており、今年度も新たにレプリカを製作することとなった。

今回の複製対象は、東北地方出土遮光器土偶（縄文時代晩期）である。同資料は、惜しくも頭部上半と腰部以下を欠失しているため、類例等を参考にしつつ実寸の復原図を作成して全体を復原することとした。但し、幸か不幸か胴部の内面を観察することができる資料は希少であるため、復原部分を残存部分に固着させることなく、頭部・脚部をアタッチメント的に取り外しできるよう配慮した。また、あわせて全体を復原したレプリカも1体作成している。なお、当土偶のレプリカ製作は、(株)トリアド工房に委託した。

第Ⅱ章 学術資料センター

1 資料収集・貸借

(1) 購入

青銅製経筒 佐賀県脊振経塚出土 1点 本青銅製経筒は佐賀県神埼市背振町背振山経塚出土である。同経塚出土資料としては、康治元（1142）年11月16日の紀年銘を有する佐賀県重要文化財に指定されている脊振山経塚群1号経塚出土銅製経筒・紙本経（昭和61年11月5日指定 佐賀県立博物館蔵）、同「脊振山」銘銅製経筒（平成22年3月12日指定 佐賀県立博物館蔵）や福岡市博物館蔵の康治元（1142）年の紀年銘を有する2点等が知られている。塔身は、袴部を含めて28.6cmを計り、中程に低い凸帯を鑄出している。「□永枚敬白」「□治四年十一□□」「京」など墨書が部分的に遺存している。蓋は13.0cmを計り、相輪形のつまみのついた笠形を呈している。

加えて、経筒と共に発見された多度式の秋草双鳥鏡（残存経6.7cm）、細縁を呈する秋草双鳥鏡（残存経9.3cm）が付随することも重要である。さらに伴出したものではないが、同時期の経文一卷が附として付される。

十四日乃祇苑会 1巻 祇園会（現在の八坂神社の祇園祭）の山鉦巡行を描いた祭礼絵巻（紙本着色）である。奥書などはないが、紙質などから江戸時代中期に描かれたものと判断する。

祇園祭の山鉦巡行は現在、7月に行われるが、かつて、前祭は6月7日（旧暦）、後祭は6月14日（旧暦）に行われていた。本絵巻は後祭に出ていた橋弁慶山、黒主山、観音山、鈴鹿山、浄妙山、役行者山、八幡山、鯉山、鷹山、船鉦を描く。

山王御祭礼番附（文政5、7、9年） 3点 江戸時代、江戸山王権現（現在の永田町・日枝神社）の祭礼（山王祭）は、神田明神（現在の神田神社）の祭礼（神田祭）と並んで天下祭と称された。本資料は、文政5年、同7年、同9年（1822年、1824年、1826年）の江戸山王権現の祭礼に際して馬喰町の森屋治兵衛が出版した祭礼番附である。祭礼番附は、町奉行所が取締を目的に提出させた番附をもとに、文字や絵で祭礼の行列の順番、出し物などを表したものであり、祭礼見物のパンフレットとなった。

明治神宮復興社殿造営関係資料（鈴木真弓氏寄贈） 1点 明治神宮の本殿をはじめとする主要な建造物は、昭和20年の空襲により焼失した。同28年、「明治神宮復興奉賛会」が結成され、復興活動が行われる。本資料群は、その際の本殿などの再建に関わるものであり、「明治神宮復興 社殿御造営計画図 平面図」「同 配置図」ほかの図面8枚、書類綴1冊より構成される。

木製神像（池田哲郎氏寄贈） 4体 伝来などは確定できていない。今後の調査が俟たれる。

(2) 貸借

平成27(2015)年度の資料利用状況については、第1表～第3表の通り所管資料の貸与申請が14件(考古資料8件・神道資料6件)、熟覧申請が9件(考古資料7件・神道資料2件)あった。また、画像複写申請が4件(考古資料)、画像掲載が48件(考古資料38件・神道資料9件)である。

2 整理・保管

(1) 考古部門の研究事業

大学ミュージアムにおける「学芸研究(考古学)」基盤の整備(平成26年度～平成28年度)

(I) 専門研究はもとより、博物館活動も、その根本にあるものは一次資料化された学術資料にほかならない。この事業では、膨大な収蔵品のデータベースを作成すると共に、収蔵品の『台帳』を編修する。また、そこから纏まった学術資料群の『目録』を公開して、広範な資料の活用に供する。これは、『学芸情報』基盤の整備事業における画像データベースを構築するための前提的作業でもある。

(II) 特定学術資料の調査・研究

IによってDB化された学術資料情報をもとに、纏まった資料群の研究事業(サブプロジェクト)を実施する。

(III) 「学術資料管理計画」・「展示改修計画」の策定・実施

IによってDB化された学術資料情報をもとに、学術資料の管理・出納システムを確立すると共に、展示コンセプト・展示コンテンツの再検討を目指していく。

(IV) 大学ミュージアム活動の実践教育

これらの事業では、学芸業務を担う臨時雇員として学生を任用し、ミュージアム活動の実務を推進する。博物館・学術資料センターの研究・公開事業と、学部・大学院教育の連携であり、専攻学生の育成や、キャリアデザインに資するものとなる。

大学ミュージアムにおける「文化財研究(考古学)」基盤の整備(平成26年度～平成28年度)

(I) 「祭祀考古学研究」拠点

祭祀遺跡DB等の継続整備を中核として、祭祀考古学会と協力しつつ全国的な祭祀考古学研究ネットワークを構築し、網羅的かつ最新の学術情報にアクセスできる研究・教育拠点を作り上げていく。

(II) 「地域文化財研究」拠点

有形・無形文化財の学際的研究事業を受け継ぎ、特定地域の総合調査SPと研究・教育を可能とする研究基盤を整備していく。テーマの必要性に応じた多様な研究ユニット、即ち学内・学外研究者(考古学・歴史学・民俗学・地理学・宗教学・環境学など)のハブとしての機能も期待される。

(III) 「埋蔵文化財研究」拠点

考古学研究室と共同で、文化財調査・整理・研究基盤を構築する。また、外部からの研究事業受託の受け皿を整備するものである。若手研究者・学生による、実践的文化財研究実習の効果も期待される。

第1表 平成27(2015)年度 資料利用状況(1)

貸与(考古資料)

利用者	資料名 / 利用目的
大阪府立弥生文化博物館	画文帯同向式神獸鏡1面(伝奈良県桜井市ホケノ山古墳出土) 平成27年度春季特別展『卑弥呼—女王創出の現象学—』にて展示(平成27年4月13日～7月17日)。
島根県立古代出雲歴史博物館	東京都大島町和泉浜遺跡C地点出土遺物74点 平成27年度企画展『百八十神坐す出雲—古代社会を支えた神祭り—』にて展示(平成27年10月9日～11月29日)。
新潟県立歴史博物館	珠洲焼1点(新潟県上越市名立沖海揚がり) 平成27年度冬季企画展『UMIAGARI—海揚がり—日本海に沈んだ陶磁器』にて展示(平成27年12月19日～平成28年3月21日)。
岡本太郎記念館	火焰型土器(新潟県小千谷市出土)ほか11点 企画展『生きる尊厳—岡本太郎の縄文—』にて展示(平成28年3月2日～7月3日)
富士見市立水子貝塚資料館	千葉県銚子市余山貝塚出土資料一括 平成27年度企画展『海と貝塚—関東地方の貝塚を探る—』にて展示(平成28年3月12日～6月15日)。
相模原市立博物館	海獣葡萄鏡2面・月兎鏡1面・神仙人花鏡1面 考古企画展『つくいの発掘 いくつも発見!』にて展示(平成28年4月10日～5月10日)。
須坂市役所	長野県須坂市石小屋洞穴遺跡出土遺物一括 『須坂市誌』編纂に伴う石小屋洞穴遺跡出土遺物の資料化。

貸与(神道資料)

利用者	資料名 / 利用目的
島根県立古代出雲歴史博物館	鉄製人形(複製)3点・木製人形(複製)5点 平成27年度企画展『百八十神坐す出雲—古代社会を支えた神祭り—』にて展示(平成27年10月9日～11月29日)。
千葉県立美術館	香取神宮神幸祭絵巻 千葉県文化財保護条例制定60周年記念特別展『香取神宮—神に奉げた美—』にて展示(平成27年11月17日～平成28年1月17日)。

熟覧(考古資料)

利用者	資料名 / 利用目的
大田区立郷土博物館	弥生土器一括(東京都大田区久ヶ原遺跡出土 徳富武雄氏採集) 平成28年度特別展『大田区の弥生時代(仮称)』実施のための資料調査。
個人(愛知県埋蔵文化財センター)	鹿角製腰飾り1点(神奈川県横浜市青ヶ台貝塚出土)・鹿角製腰飾り1点(埼玉県さいたま市真福寺貝塚出土) 縄文時代における骨角製装身具類の研究のための資料調査。
個人(韓国国立中央博物館)	石器(長野県木曾町柳又遺跡A地点出土) 比較研究のための資料調査。
個人	埴・土器片(中国東北地方出土 梅本俊二氏寄贈・鞍山中学校歴史研究室旧蔵) 論文執筆のための資料調査。
個人	画文帯同向式神獸鏡1面(伝奈良県桜井市ホケノ山古墳出土)・出土画文帯同向式神獸鏡1面(伝奈良県桜井市箸中出土) 修士論文執筆のための資料調査。

熟覧(神道資料)

利用者	資料名 / 利用目的
千葉県立美術館	香取神宮神幸祭絵巻 千葉県文化財保護条例制定60周年記念特別展『香取神宮—神に奉げた美—』実施のための資料調査。

第2表 平成27(2015)年度 資料利用状況(2)

利用者	資料名 / 利用目的
鹿児島県歴史資料センター黎明館	僧形八幡神像、八幡宮吉祥宝印 平成28年度企画特別展『八幡神の遺宝—南九州の八幡信仰—』実施のための資料調査。
(公財) 祇園祭山鉾連合会	「祇園祭礼絵巻」(冷泉為恭作) 1巻、「十四日乃祇苑会」 祇園祭鷹山復興のための絵画史料として鷹山復興検討委員会に提示するための資料調査。
個人(颯川美術館)	祇園会御祭礼御行列等 論文集(思文閣出版)執筆のための資料調査。
個人	高倉家調進控 装束織文集成 装束研究のための資料調査。

画像複写(考古資料)

利用者	資料名 / 利用目的
個人(島根大学)	柴田常恵写真資料 環頭把頭(奈良県天理市石上神宮禁足地出土) 調査研究のための画像複写。

画像掲載(考古資料)

利用者	資料名 / 利用目的
袖ヶ浦市教育委員会	大場磐雄写真資料 千葉県木更津市松面古墳 袖ヶ浦市遺跡発表会発表要旨「木更津市松面古墳の発掘調査」に掲載
埼玉県立さきたま史跡の博物館	柴田常恵写真資料 環頭把頭(石上神宮禁足地出土) 『埼玉県立さきたま史跡の博物館紀要』第9号に掲載。
富士見市立水子貝塚資料館	千葉県銚子市余山貝塚出土資料 平成27年度企画展『海と貝塚—関東地方の貝塚を探る—』展示図録に掲載。
東京都教育庁	大場磐雄写真資料 東京都目黒区東山貝塚 第41回東京都遺跡調査・研究発表会告知ポスター等に掲載。
渋谷区立猿楽小学校	博物館外観写真・内覧写真 猿楽小学校100周年記念副読本に掲載。
八王子市	大場磐雄資料 東京都宇津木向原遺跡 『新八王子市史』通史編1 原始・古代に掲載
長岡市市立科学博物館・馬高縄文館	火焰型土器(新潟県長岡市岩野原遺跡出土 個人蔵) 平成28年度催し物案内・夏季特別展「火焰土器展」関係印刷物に掲載。
須坂市役所	長野県須坂市石小屋洞穴遺跡出土遺物 『須坂市誌』・須坂市ホームページ等に掲載。各種報道機関への情報提供。
安城市教育委員会	柴田常恵写真資料 柴田常恵写真資料目録I(2274~2279)6葉 『桜井古墳群保存管理計画書』に掲載。
大阪府立弥生文化博物館	画文帯同向式神獸鏡1面(伝奈良県桜井市ホケノ山古墳出土) 平成27年度春季特別展『卑弥呼—創出の現象学—』解説図録・リーフレット等に掲載。
大阪歴史博物館	千葉県銚子市余山貝塚出土深鉢(『余山貝塚資料図譜』) 『共同研究報告書9—高島多米治と下郷コレクション(余山貝塚編)』に掲載。
因幡万葉歴史館	石枕(千葉県市原市姉ヶ崎二子塚古墳出土) 展覧会「土器の枕—枕に眠る古代因幡の人びと—」パネル展示・展覧会解説冊子『土器の枕』に掲載。
薩摩川内市川内歴史資料館	柴田常恵瓦拓本資料 鹿児島県薩摩国分寺瓦 薩摩国分寺跡史跡公園開園30周年企画展「薩摩国分寺への想い」に伴うパネル展示・展示解説書に掲載。
武蔵野美術大学出版局	博物館内観写真(安斎聡子氏撮影) 『ミューゼオロジーの展開経営論・資料論』に掲載。
(株)吉川弘文館	静岡県下田市洗田遺跡出土遺物 『神と死者の考古学』(笹生衛著)に掲載。

第3表 平成27(2015)年度 資料利用状況(3)

利用者	資料名 / 利用目的
(株) 風土文化社	奈良県王寺町達磨寺境内出土経石 『あなたが知らない般若心経』(洋泉社刊)に掲載。
須坂新聞(株)	長野県須坂市石小屋洞穴遺跡出土微隆起線文土器 『須坂新聞』平成28年元旦号の郷土史特集に掲載。
(株) 山川出版	縄文土器(秋田県能代市大野遺跡出土) 文科省検定済教科書「新日本史改訂版」に掲載。
(株) 山川出版社	縄文土器(長野県須坂市石小屋洞穴出土) 『中高一貫校向日本史』に掲載。
(株) 学研教育出版	握り槌(仏カストル出土) 『ディズニー暗記カード中学社会科用語』に掲載。
(株) 学研教育出版	握り槌(仏カストル出土) 『スターウォーズ暗記カード中学社会科用語』に掲載。
(株) 学研教育出版	握り槌(仏カストル出土)、深鉢(山梨県笛吹市花鳥山遺跡出土) 『セシルマクピースタディコレクション中2』に掲載。
(株) 学研教育出版	石包丁 『高校入試中学3年分をたった7日で総復習 社会』(学研教育出版発行)に掲載。
(株) 学研プラス	石包丁・石鏃 『HISTORIA 日本史精選問題集』に掲載。
(株) 学研プラス	磨製石器・縄文土器・甲骨文字・勾玉・円筒埴輪 『パーフェクトコース中学社会 改訂版』に掲載。
(株) 学研プラス	磨製石器・縄文土器・甲骨文字 『パーフェクトコース問題集 中学社会 改訂版』に掲載。
(株) 学研プラス	石鏃 『パーフェクトコース問題集 中学社会 改訂版』に掲載。
(株) 学研プラス	磨製石器・縄文土器・甲骨文字 『全教研通年テキスト 歴史』に掲載。
(株) フォト・オリジナル	縄文土器(千葉県佐倉市江原台出土) 平成27年度版『カリキュラムテスト第7回5年社会』(学研エデュケーショナル発行)に掲載。
(株) フォト・オリジナル	縄文土器(千葉県佐倉市江原台出土) 『あすなろ学院版春期講習テキスト 中学2年』(学研プラス発行)に掲載。
(株) フォト・オリジナル	縄文土器(千葉県佐倉市江原台出土) 『あすなろ学院版冬期講習テキスト 中学1年』(学研プラス発行)に掲載。
(株) 正進社	縄文土器 中学生向け教材『基本から発展へ 歴史1』(正進社発行)に掲載。
(株) 正進社	縄文土器 中学生向け教材『歴史の完全学習1』(正進社発行)に掲載。
(株) セブクリエイティブ	拳手人面土器(長野県長野市片山遺跡出土)・博物館内展示風景写真 『にっぽん全国土偶手帖』(世界文化社発行)に掲載。
(株) 産業新潮社	博物館外観写真・内観写真 月刊誌『産業新潮』(産業新潮社発行)連載「シリーズ・ミュージアム」に掲載。
NPO 法人 jomonism	火焰型土器(個人蔵)・加曾利 E1式土器・北関東加曾利 E1式土器 米国コロラド州・デンバー国際空港「ARTs of JOMON in Denver」写真展示に掲載。
NHK 文化センター前橋支社	博物館外観写真 平成28年4月期講座紹介新聞折込チラシ内「大學博物館へ行こう! 講師:大工原豊」に掲載。
個人(袖ヶ浦市教育委員会)	大場磐雄博士資料 雑誌論文に掲載。

第4表 平成27(2015)年度 資料利用状況(4)

利用者	資料名 / 利用目的
個人	火炎土器(個人所蔵)、阿玉台Ⅳ式土器 / 加曾利 E1式土器 フリーペーパー「縄文 ZINE」に掲載。
個人	富士山図柄鏡(服部和彦氏寄贈) 『北野天満宮社報』に掲載。
個人	柴田常恵写真資料 國學院大學デジタルミュージアム(sj0854) 「常磐公園の見物順序について」におけるポイント資料として利用。
個人	毛抜形太刀(長野県塩尻市宗賀出土) 『月刊秘伝』11月号・WEBサイト「日本刀考」に掲載。

画像掲載(神道資料)

利用者	資料名 / 利用目的
長野県立歴史館	『現代・神社の信仰分布 ―その歴史的経緯を考えるために―』掲載神社分布図 平成28年度近世常設展示「各地の諏訪信仰」説明パネルに掲載。
松江市役所史料編纂室	吉田斎場場所太元宮図屏風 『松江市史』通史編2「中世」に掲載。
(財)鷹山保存会	祇園祭礼絵巻(鷹山部分) (財)鷹山保存会パンフレットに掲載。
(株)吉川弘文館	山ノ花遺跡復元木製案 『神と死者の考古学』(笹生衛著)に掲載。
丸善出版(株)	「えびす講」(東都歳時記 五巻)画像 『インテリアの百科事典』(丸善出版発行)に掲載。
(株)G.B.編集部	丹生四社明神像 (株)デアゴスティーニ・ジャパン『週刊 日本の神社』特集:丹生都比売神社・竈山神社・伊太祁曽神社に掲載。
(有)スタジオ・ジップ	僧形八幡神像・北野天満宮縁起(天神の本地) 『入門神様と神社』(洋泉社ムック)に掲載。
(株)廣濟堂出版	北野天満宮縁起(天神の本地) ムック本『日本の神様大全』(廣濟堂出版)に掲載。
(株)知楽	おしらさま・田の神様像 ムック本『日本の神様大全』(廣濟堂出版)に掲載。

TV撮影(考古資料)

利用者	資料名 / 利用目的
(株)ネクサス	微隆起線文土器(長野県須坂市石小屋洞穴出土) 制作番組「開運!何でも鑑定団」にて放映(縄文土器の紹介)。

TV撮影(神道資料)

利用者	資料名 / 利用目的
高岡ケーブルネットワーク(株)	年中行事絵巻 高岡ケーブルネットワーク放送「教えて!獅子舞テレビ」にて放映。
テレビ朝日映像(株)第2制作局	浅間大神御影 BS朝日「円楽の大江戸なんでも番付」にて放映(浅間神社の説明)。

(Ⅳ) 大学ミュージアム活動の実践教育

これらの事業では、学芸業務を担う臨時職員として学生を任用し、ミュージアム活動の実務を推進する。博物館・学術資料センターの研究・公開事業と、学部・大学院教育の連携であり、専攻学生の育成や、キャリアデザインに資するものとなる。

大学ミュージアムにおける「学芸情報(考古学)」基盤の整備(平成26年度～平成28年度)

(I) 学術資産の全体像把握と集中管理

未整理分を含めた所管学術資産の簡易目録を作成し、その全体像を把握する。加えて、それらの劣化対策を講じると共に、収蔵施設の一本化・集中管理を図るため、「学術資産管理計画」を策定し、学術資産の管理・出納システムの確立を目指していく。また、併せてミュージアム関連アプリの開発も実施したい。

(II) 学術資料・学術資産・学術情報のデジタル化と公開

「学芸研究」基盤の整備」事業によって整理された学術資料や、特に早期の公開が望まれる学術資産の撮影・デジタル化を進めると共に、その情報をDMにおいて公開していく。また、当センターの研究事業によって生成されたDB等については、当該DB作成部署と連携しつつ、その保守を担当する。

(III) 特定学術資産の調査・研究

I・IIによってDB化された学術資産情報をもとに、纏まった特定学術資産群の研究事業（サブプロジェクト）を実施する。

(IV) 大学ミュージアム活動の実践教育

これらの事業では、学芸業務を担う臨時雇員として学生を任用し、ミュージアム活動の実務を推進する。博物館・学術資料センターの研究・公開事業と、学部・大学院教育の連携であり、専攻学生の育成や、キャリアデザインに資するものとなる。

受託事業：東京都調布市下布田遺跡調査研究事業（平成26年度～平成27年度） 東京都調布市の下布田遺跡（国指定史跡）は、縄文時代晩期の墓域や祭祀跡からなり、土偶・土版・独鈷石・石棒などの遺物や、方形配石遺構・合口甕棺墓などの遺構が確認されている。当事業は、昭和39（1964）年から國學院大學久我山高等学校考古学部が初期の調査を実施した経緯を受けて、調布市より既往の調査資料に関する再整理・研究事業が委託されたのである。

(2) 神道部門の研究事業

祭祀・祭礼の変遷に関する研究と関連資料の整理分析（平成27年度 成果報告）

平成27年度は、祭礼の展開について①本部門が所管している『香取神宮神幸祭絵巻』の研究、②『東都歳事記』を用い、江戸の祭礼の研究をすすめた。

①については、平成27年11月より翌28年1月17日まで千葉県立美術館で行われた特別展「香取神宮神に奉げた美」に研究成果を提供したことが中心となる。同展示には『香取神宮神幸祭絵巻』の諸本の一つとして、國學院大學本（本部門所管）も展示され、図録には笹生衛学術資料センター長が「香取神宮の歴史と祭り ―古代・中世の信仰と「神幸祭絵巻」を中心に―」、吉永博彰ポスドク研究員が「『香取神宮神幸祭絵巻』に描かれた神職とその組織」を執筆した。また本部門が刊行する『館報』15号には、それらの要旨を掲載した。

②については、國學院大學博物館において特集展示「番附にみる天下祭」、「夏の祭 ―祇園祭と天王祭―」を開催し、研究成果を公開した。また、『館報』15号には大東敬明准教授が「江戸の祭 ―天下祭と天王祭―」を掲載し、研究成果と展示概要の報告を行った。

第三章 博物館

1 展示・公開

(1) 特別展

特別展 「江戸のベストセラー『唐詩選』の世界」

國學院大學は、学問の流儀を大学の名に冠している。

「国学」の誕生は、学問といえば「漢学」を指していた時代から、日本人としての自らを見つめ、よって立つ基盤を明らかにしようと、漢学を批判的に見直すことを契機としている。その学問の発展には、漢籍の受容や漢文理解が基層として横たわり、不可欠であった。

それを可能にしたのは、近世における教育の普及と出版の盛行がそれを支えた。教育は、藩校・私塾・寺子屋などを通し、統治者から庶民に至るまで、階層ごとに分化しながらも、隅々まで行き渡り、近代化の下地になった。

また、出版業の発足と盛行が、学術思想の伝播や普及に大いに貢献した。とりわけ、木版印刷の発達を目を見張るものがあり、出版業の成功と書物の普及が学問の隆昌と不可分の関係にあったと言える。

今回の展示は、漢籍の受容を通し、アジアの文芸様式として普遍的であった漢詩を取り上げ、わが国における出版を通し、その受容と応用の実際を探り、江戸時代の人々の目に映った中国の文化を探求することとした。漢詩とりわけ江戸時代に爆発的に流行した『唐詩選』を取り上げることによって、当時の人々の唐詩に対する愛好を見る企画とした。

会期：平成27(2015)年10月3日(土)～11月15日(日)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：赤井益久(学長・文学部教授)

展示構成：第1章：漢籍とはなにか、第2章：室町期以降の唐詩関係の出版物、第3章：江戸のベストセラー『唐詩選』、第4章：唐詩選周辺書(評論・詩語・韻書)、付録・余滴(狂詩・画本・かるた等)

出版物：赤井益久・有木大輔・石村貴博・古山悟由・佐川繭子・鈴木崇義 編著『特別展 江戸のベストセラー『唐詩選』の世界』、國學院大學博物館、平成27(2015)年10月3日発行、全44頁。





関連イベント：ミュージアムトーク [1]「展示解説」、日時：平成27(2015)年10月10日(土) 12:30～13:00、解説：赤井益久(学長・文学部教授)。同 [2]「展示解説」、日時：平成27(2015)年10月17日(土) 12:30～13:00、解説：赤井益久(学長・文学部教授)。同 [3]「展示解説」、日時：平成27(2015)年10月17日(土) 14:30～15:00、解説：赤井益久(学長・文学部教授)。

(2) 企画展

第1回企画展 「収蔵品展」

國學院大學博物館では、その前身施設が設置された昭和3(1928)年以来、日本文化に関する調査研究と、本学の学生に対する教育支援を目的として、考古・神道資料の収集を推進してきた。また、校史資料室等の後身である校史・学術資産研究センターにおいても、本学の歴史にまつわる様々な資料を収集・管理している。これらの収蔵資料は、国学と國學院大學の学問について紹介する校史展示室、考古資料から日本列島の歴史を紐解く考古展示室、そして神道と日本文化を明らかにする神道展示室において見ることができる。

しかし、限られた常設展示の空間で、本学が蓄積してきた学術資料の全貌をお目にかけることは些か困難と言わざるを得ない。そこで、新たな寄贈・購入・模造・修理物件のほか、従来展示される機会の少なかった資料の数々を紹介する場として、企画展「収蔵品展」を開催した。今年度は、校史分野から有栖川流の書跡等、神道分野から年中行事絵巻、考古分野から縄文土器・弥生土器を出陳した。

会期：平成27(2015)年4月13日(月)～5月17日(日)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：大東敬明(研究開発推進機構准教授)・深澤太郎(研究開発推進機構准教授)・渡邊卓(研究開発推進機構助教)・石井匠(当館学芸員)



展示構成：第1章：校史資料、第2章：神道資料、第3章：考古資料

関連イベント：ミュージアムトーク [1]「まつりを読みとく」、日時：平成27(2015)年5月2日(土) 12:15～12:45、解説：大東敬明(研究開発推進機構准教授)。同 [2]「展示解説」、日時：平成27(2015)年5月16日(土) 12:15～12:45、解説：大東敬明(研究開発推進機構准教授)・石井匠(当館学芸員)。

第2回企画展 「教派神道の教祖と儀礼」

教派神道とは、明治時代の宗教政策の中で、「神道教派」として政府から公認された神道教団のことである。その多くは、幕末から明治時代にかけて生まれた神道系の民衆宗教が基盤になっている。教派神道の連合組織である教派神道連合会は、明治28(1895)年に「神道同志会」の名称で結成された。平成27(2015)年は、この結成から120年目に当たる。「神道同志会」以降、退会、加盟などを経て、現在、この連合会には出雲大社教・大本・御嶽教・黒住教・金光教・実行教・神習教・神道修成派・神道大教・神理教・神道扶桑教・禊教が加盟している。

國學院大學は、明治15(1882)年に設立された皇典講究所を出発点としている。皇典講究所の草創期に関わった人々は、初代総裁・有栖川宮熈仁親王をはじめとして教派神道にも関与した。特に宍野半や神崎一作は教派神道の形成や展開に強く関わっている。また、昭和24(1949)年からは教派神道連合会の委託を受けて國學院大學は「神道講座」を開講していた。この講座は同41(1966)年を最後に中断していたが、本年6月より、この講座も再開されることとなった。

國學院大學博物館では、これらを記念して企画展「教派神道の教祖と儀礼」を開催することにした。教派神道は、「どのような教祖(創始者)によってはじめられたのか?」「そこではどのような儀礼が行われているのか?」「國學院大學とどのように関わったのか?」の3つをテーマに、本学所蔵資料、教派神道連合会所属教団よりお借りした教祖ゆかりの品々・儀式で用いられる道具を展示した。

会期：平成27(2015)年6月1日(月)～6月30日(火)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：井上順孝(研究開発推進機構長・神道文化学部教授)・中山郁(教育開発推進機構准教授)・大東敬明(研究開発推進機構准教授)・武田幸也(研究開発推進機構助教)

展示構成：1：草創期の教派神道と國學院大學、2：教派神道の諸儀礼、3：教派神道の教祖(創始者)たち、4：戦後の教派神道と國學院大學

出版物：井上順孝・中山郁 監修、大東敬明・武田幸也 著、陣内理良 編 展示リーフレット『企画展「教派神道の教祖と儀礼」』、國學院大學博物館、平成27(2015)年6月1日発行、全4頁。

関連イベント：ミュージアムトーク [1]「教派神道教団と「神道」—國學院大學とのかかわりから—」、日時：平成27(2015)年6月13日(土) 15:30～16:00、解説：中山郁(教育開発推進機構准教授)。同 [2]



「教派神道の創始者は教祖か?」、日時：平成27(2015)年6月20日(土)15:30~16:00、解説：井上順孝(研究開発推進機構長・神道文化学部教授)。

第3回企画展 國學院大學学びへの誘い—明治国家と法制官僚— 井上毅歿後120年記念]

明治時代の日本は、西欧諸国に比肩する国家となるべく、近代化を推し進めた。このような中、近代的な法律や制度の整備をになった法制官僚たちは、単に西欧を模倣するのではなく、日本の独自性を有した近代国家のあり方を追究して、その確立をめざした。

こうした明治日本の法制官僚を代表する存在が井上毅であった。井上毅(1844~1895)は、肥後国熊本出身で、その実力を大久保利通に見出されて以降、主に法制官僚として活躍し、明治22(1889)年の大日本帝国憲法の制定においては、伊藤博文の右腕として草案作成に中心的な役割を果たした。また、国会開設の勅諭・教育勅語などの詔勅をはじめ、多数におよぶ法律・制度の起草や多岐にわたる政策の立案に従事しており、今日、「明治国家建設のグランドデザイナー」と称されている。井上毅が所有していた文書・図書からなる「梧陰文庫」(「梧陰」は、井上毅の号)は、



明治日本の近代化を読み解く上でも貴重な資料群であり、現在、國學院大學図書館に所蔵されている。

今年は井上毅歿後120年の節目にあたることから、これを記念して、「梧陰文庫」の資料を中心に、井上毅の事績を日本の近代化とともに尽くした人々との交流に着目して紹介し、明治国家の建設にかけた当時の人々の想いに迫る展示とした。

会期：平成27(2015)年7月11日(土)~8月7日(金)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：齊藤智朗(神道文化学部准教授)・古山悟由(学術メディアセンター事務部次長・図書館事務課長)

展示構成：Ⅰ：はじめに、Ⅱ：井上毅と梧陰文庫、Ⅲ：伊藤博文と井上毅、Ⅳ：山県有朋・山田顕義と井上毅、Ⅴ：大日本帝国憲法の成立Ⅰ、Ⅵ：大日本帝国憲法の成立Ⅱ、Ⅶ：井上毅とお雇い外国人、Ⅷ：明治天皇詔勅と井上毅

協力：國學院大學図書館

出版物：齊藤智朗・古山悟由 編著 展示図録『明治国家と法制官僚—井上毅歿後120年記念—』、國學院大學、平成27(2015)年5月31日発行、全14頁。

関連イベント：ブロッガー内覧会、日時：平成27(2015)年7月10日(金)17:30~19:00、解説：齊藤智朗(神道文化学部准教授)。ミュージアムトーク、日時：平成27(2015)年7月18日(土)13:30~14:00、解説：齊藤智朗(神道文化学部准教授)。

第4回企画展 <SHIBUYA>

祈りと欲望が渦巻くカオス都市、渋谷。渋谷には、知られていないことがあまりに多い。そのアスファルトの下には数万年前の遺跡が眠り、地上には、中世までさかのぼる古い神社がいくつも存在する。明治神宮の鎮守の森は、150年後の未来を見すえて造られた人工の森だ。渋谷のシンボル「忠犬ハチ公」は、実は2代目に替わっている。そして昭和39（1964）年の東京オリンピックを契機に、さまざまなモニュメントがここに集結してきた。そんな渋谷では、昔ながらの伝統的な祭りが、渋谷のランドマーク SHIBUYA109 前に神輿14基が集結するという形で今も続けられている。

本展覧会では、渋谷のアスファルトの下に眠る、先史時代から続く人々の営みの紹介を皮切りに、渋谷の過去・現在・未来の「時」にまつわる、人々とモノの死と再生の物語をみていき、そこから<SHIBUYA>という「場」を持つ、地の力を考えることを企画した。

会期：平成27（2015）年8月22日（土）～9月30日（水）

会場：國學院大學博物館 企画展示室、ホール

責任担当者：宮本誉士（研究開発推進機構准教授）・石井匠（当館学芸員）

展示構成：序章：はじまりは鄙 —渋谷の地下に眠る過去—、第1章：渋谷境界の社寺と祭礼 —地域社会の信仰空間—、第2章：都市住民の物語 —人工の森出現と忠犬ハチ公—、第3章：ビルの森で「もやい」を求めて —物語なき世のモニュメント—、第4章：死と再生の神話 —私たちの向かう未来の地平—、結章：そして、SHIBUYA —過去・現在・未来を結ぶ地の力—

主催：國學院大學博物館、國學院大學渋谷学研究会

後援：渋谷区、毎日新聞社

協力：井賀孝、岡本太郎記念館、株式会社東急百貨店、川崎市岡本太郎美術館、金王八幡宮、渋谷中央街、渋谷氷川神社、清水建設株式会社、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、東急グループ、東京急行電鉄株式会社、富沢瑞夫、明治神宮、大和市、吉村美術研究所、MASS RHYTHM（藤原惇・南陽平・高橋優）

出版物：國學院大學博物館・國學院大學渋谷学研究会編 展示リーフレット『企画展 <SHIBUYA>』、國學院大學博物館、平成27（2015）年8月22日発行、全4頁。

関連イベント：ミュージアムトーク [1]「展示解説」、日時：平成27（2015）年9月5日（土）12:30～13:00、解説：秋野淳一（研究開発推進機構PD研究員）。同 [2]「展示解説」、日時：平成27（2015）年9月12日（土）15:30～16:00、解説：石井匠（学芸員）。同 [3]「オリンピック前後の渋谷」、日時：平成27（2015）年9月26日（土）15:30～16:00、解説：上山和雄（文学部教授）。



第5回企画展 「神仏・異類・人 ―奈良絵本・絵巻にみる怪異―」

日本には、ふるくから不思議な物語がある。たとえば、かぐや姫が月にのぼる物語、大むかでや鬼などの化け物を退治する物語、ねずみが人間のように生活する物語などである。これらの物語では、人間だけではなく、神仏や鬼・妖怪などの異類も、さまざまな思いを抱えながら感情豊かに、また魅力的に活躍している。この物語世界は、絵に描かれ目に見える形となることで、現代にいたるまで、さまざまな時代の人々を楽しませていた。

本企画展では、現実にはありえない不思議なこと〔怪異〕を描いた奈良絵本・絵巻を通して、物語のおもしろさや魅力を紹介した。

会期：平成27(2015)年11月21日(土)～平成28(2016)年2月7日(日)

前期：平成27(2015)年11月21日(土)～12月23日(水)、後期：平成28(2016)年1月8日(金)～2月7日(日)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：監修：針本正行(文学部教授)、展示：大東敬明(研究開発推進機構准教授)・渡邊卓(研究開発推進機構助教)・荒木優也(文学部兼任講師・研究開発推進機構PD研究員)・陣内理良(当館学芸員)

翻訳：スワンソン・エリック(ハーバード大学 東アジア言語文明学部博士課程)

展示構成：第1章：王朝の絵巻、第2章：異類の顕現、第3章：神仏の哀歎、第4章：異類の活躍
協力：國學院大學図書館

出版物：針本正行 監修、荒木優也 著、大東敬明・渡邊卓・陣内理良 編、スワンソン・エリック 訳
展示リーフレット『企画展「神仏・異類・人 ―奈良絵本・絵巻にみる怪異―』、國學院大學博物館、平成27(2015)年11月21日発行、全4頁。

『企画展「神仏・異類・人―奈良絵本・絵巻にみる怪異―」キャラクター紹介』、國學院大學博物館、平成27(2015)年11月21日発行、全2頁。

関連イベント：ミュージアムトーク [1]「展示解説」、日時：平成27(2015)年11月21日(土)14:00～14:30、解説：針本正行(文学部教授)。同 [2]「展示解説」、日時：平成27(2015)年12月19日(土)12:30～13:00、解説：荒木優也(文学部兼任講師・研究開発推進機構PD研究員)。同 [3]「展示解説」、日時：平成28(2016)年1月9日(土)12:30～13:00、解説：荒木優也(文学部兼任講師・研究開発推進機構PD研究員)。同 [4]「展示解説」、日時：平成28(2016)年1月23日(土)12:30分～13:00、解説：大東敬明(研究開発推進機構准教授)。ワークショップ「妖怪絵巻をつくろう!」、日時：平成28(2016)年1月24日(日)10:30～12:00・14:00～15:30、講師：渡邊卓(研究開発推進機構助教)。



第6回企画展 「花鳥風月 柄鏡の美 ～服部和彦氏寄贈コレクションを中心として～」

國學院大學博物館には、服部和彦氏の篤志によって寄贈された1,000点に近い鏡が収蔵されている。

古代、中世における和鏡の鏡背文様は、吉祥文としての松樹や竹などの植物に加え、鶴、雀などの鳥文を配するという一定のパターンから脱却することはなかった。しかし、近世に花開く柄鏡の鏡背文様には、人物、動植物、器物、山水樓閣をはじめ、自由奔放な独自の絵画的世界が採用され、私たちの目を楽しませてくれる。

今回はこれらの収蔵品の内から中世後半に出現し、江戸時代を通して一般庶民にまで広く浸透した柄鏡の魅力を紹介した。

会期：平成28(2016)年2月11日(木・祝)～3月13日(日)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：内川隆志(研究開発推進機構教授)

展示構成：Ⅰ：柄鏡の出現、Ⅱ：柄鏡の消長、Ⅲ：絵画的世界の展開、Ⅳ：浮世絵と柄鏡

関連イベント：ミュージアムトーク[1]「展示解説」、日時：平成28(2016)年2月13日(土)14:00～14:30、解説：内川隆志(研究開発推進機構教授)。同[2]「展示解説」、日時：平成28(2016)年3月5日(土)14:00～14:30、解説：内川隆志(研究開発推進機構教授)。

出版物：内川隆志 著、陣内理良 編 展示リーフレット『企画展「花鳥風月 柄鏡の美 ～服部和彦氏寄贈コレクションを中心として～」』、國學院大學博物館、平成28(2016)年2月11日発行、全4頁。



第7回企画展 「中世の古文書をよむ～國學院大學所蔵の重要文化財「久我家文書」を展示～」

情報伝達の手段が発達していない中世において、自らの意思を伝える上で、文書はなくてはならないものであった。文書の様式は様々だ。また、一口に中世といっても、鎌倉時代から戦国時代まで、その期間はとても長く、様式も時代とともに変化していった。

今回の展示では、國學院大學が所蔵している古文書のうち、久我家文書(国指定重要文化財)や吉田家文書など、史料価値が高く、内容的にも興味深いものを紹介した。そのなかには、足利尊氏や織田信長、豊臣秀吉といった歴史上の著名人による文書も多数ある。時代を転換させた彼らの文書を展示した。また、文書は紙が用いられるとは限らない。時には木に書かれ、石に刻まれていることもある。今回は、そのような「石に刻まれた文献史料」も展示した。



会期：平成28(2016)年3月19日(土)～4月17日(日)

会場：國學院大學博物館 企画展示室

責任担当者：千々和到(文学部教授)・堀越祐一(文学部兼任講師・研究開発推進機構客員研究員)・大東敬明(研究開発推進機構准教授)

展示構成：1：久我家文書の世界、2：東国の武家文書 一白河結城文書一、3：社家・寺院に伝来した古文書、4：石に刻まれた文献史料

協力：國學院大學図書館

関連イベント：ミュージアムトーク [1]「國學院大學所蔵の中世文書」、日時：平成28(2016)年3月26日(土)14:00～14:30、解説：千々和到(文学部教授)。同 [2]「信長・秀吉の古文書」、日時：4月9日(土)14:00～14:30、解説：堀越祐一(文学部兼任講師・研究開発推進機構客員研究員)。

出版物：千々和到・堀越祐一 著、大東敬明・陣内理良 編 展示リーフレット『企画展「中世の古文書をよむ～國學院大學所蔵の重要文化財「久我家文書」を展示～」』、國學院大學博物館、平成28(2016)年3月19日発行、全4頁。

(3) 特集展示

特集展示「番附にみる天下祭」

神田神社(神田明神)の神田祭と日枝神社(江戸山王権現)の山王祭は、天下祭として知られる華やかな祭礼である。両祭礼は隔年で行われ、平成27年は5月に神田祭が行われた。江戸時代には、この祭礼に際して、絵や文字で祭礼行列を紹介した番附が出版された。その形態は一様ではなく、横帳型・絵本型・一枚摺り型がある。本展示では、國學院大學図書館(宮地直一コレクション)と当館が所蔵する祭礼番附を展示した。

会期：平成27(2015)年5月2日(土)～5月24日(日)

会場：國學院大學博物館 神道展示室

責任担当者：大東敬明(研究開発推進機構准教授)

特集展示「夏の祭 一祇園祭と天王祭一」

毎年7月に京都で行われる祇園祭(八坂神社)は、日本全国に波及しており、各地の地名を冠した祇園祭も行われている。これらの神社は、かつては疫病除けの神である牛頭天王に対する信仰を基盤としていた。本展示では、平成26(2014)年に行った特集展示「祇園祭」に続き、祇園祭、尾張津島天王祭、そして江戸の天王祭に関わる資料を展示した。

会期：平成27(2015)年7月11日(土)～8月30日(日)

会場：國學院大學博物館 神道展示室

責任担当者：大東敬明(研究開発推進機構准教授)

関連イベント：ミュージアムトーク「夏の祭 一祇園祭と天王祭一」、日時：平成27(2015)年7月18日(土)14:30～15:00、解説：大東敬明(研究開発推進機構准教授)。

特集展示「近代日本におけるイスラム教 ―東京回教礼拝堂と回教学校―」

渋谷区大山町の東京ジャーミイ。このモスクに隣接する2階建ての木造建築は、かつて東京回教学校と呼ばれていたが、近く取り壊される予定にあるという。本展示では、同校や戦前の日本のイスラム史を紐解きつつ、近代日本とイスラム世界との関わりを紹介した。

会期：平成27(2015)年10月1日(木)～12月16日(水)

会場：國學院大學博物館ホール

責任担当者：深澤太郎(研究開発推進機構准教授)・陣内理良(当館学芸員)

協力：東京ジャーミイ・トルコ文化センター

関連イベント：ワークショップ「世界の宗教を知る」第2回 イスラム教「アッサラーム・アレイクム！―渋谷のモスクでムスリム文化にふれる―」、日時：平成27(2015)年10月4日(日)12:00～16:00、講師：ムハンメッド・ラーシット・アラス(東京ジャーミイ代表・イマーム)、下山茂(東京ジャーミイ)。

特集展示「学徒出陣と國學院大學 ―出陣学徒の“ことば”―」

昭和18(1943)年に学徒出陣が決定されて以降、本学からも多数の学徒が出陣していった。今日、学徒出陣に関する資料は極めて少ない状況にあるが、戦後70年を迎えるにあたり、本学所蔵の学徒動員関係資料を校史展示室で紹介した。

会期：平成27(2015)年10月10日(土)～11月10日(火)

会場：國學院大學博物館 校史展示室

責任担当者：高野裕基(研究開発推進機構助教)

特集展示「戦後70年 戦没考古学徒の足跡 ―神林淳雄の遺した資料を通して―」

戦陣に散った考古学徒の足跡を振り返り、無念にも戦争によって絶たれた学問の系譜を問い直す特集とした。戦後70年を迎えた本年は、院友の東京帝室博物館鑑査官補であった神林淳雄が遺した資料を紹介した。

会期：平成27(2015)年10月10日(土)～11月10日(火)

会場：國學院大學博物館 考古展示室

責任担当者：深澤太郎(研究開発推進機構准教授)

特集展示「江戸の錦絵 上方の合羽摺」

江戸で生まれた「錦絵」と、上方で生まれた「合羽摺」。これら、日本文化を代表する版画の製作技法について、4点の國學院大學所蔵資料を通して見ていく展示とした。会期中に開催される国際浮世絵学会との連携企画として実施。

会期：平成27(2015)年10月27日(火)～11月15日(日)

会場：國學院大學博物館ホール

責任担当者：藤澤紫(文学部教授)・深澤太郎(研究開発推進機構准教授)

特集展示「山岳信仰の考古学 一山を仰ぎ、山に登る」

古来、日本列島では、山を信仰の対象として仰いできた。古墳時代の人々は、山頂を極めなかったが、次第に山林仏徒が山で修行を行うようになる。11世紀には、在来の神祇信仰と仏教などが結びついて修験道が成立。近世になると、多くの民衆が霊山に登拝した。本展示では、本学所蔵の山岳信仰に関わる考古資料を紹介した。

会期：平成27(2015)年11月12日(木)～平成28(2016)年3月31日(木)

会場：國學院大學博物館 考古展示室

責任担当者：深澤太郎(本学研究開発推進機構准教授)

協力：大山阿夫利神社、大藤教会(山荘だいたう)

関連イベント：ワークショップ「世界の宗教を知る」第3回 修験道「お山は晴天、六根清浄！ 一相模大山修験道の道を歩く」、日時：平成27(2015)年10月18日(日)7:30～17:00、講師：深澤太郎(研究開発推進機構准教授)、網谷哲成(当館学芸員)

特集展示「天神さま」

天神さまと称される菅原道真公(菅公・菅丞相とも)は、近畿地方・九州地方をはじめ全国各地の天満宮や天神社、菅原神社を中心におまつりされており、現在は、地域の鎮守や学問の神として広く親しまれている。ところが、道真公はかつて、平安時代には崇る霊としても恐れられた神であった。本展示では、平成26(2014)年に行った「熊野信仰」の特集展示に続き、天神信仰に注目し、関連する資料を展示した。

会期：平成28(2016)年1月30日(土)～3月13日(日)

会場：國學院大學博物館 神道展示室

責任担当者：吉永博彰(研究開発推進機構PD研究員)・網谷哲成(当館学芸員)

刊行物：吉永博彰著 解説シート『天神さま』、國學院大學博物館、平成28(2016)年1月30日発行、全2頁。

特集展示「穂高古墳群F9号墳 一考古学実習速報展」

國學院大學考古学研究室では、学部・大学院による「考古学調査法」の一環として、平成21(2009)年度から長野県安曇野市穂高古墳群F9号墳の学術調査を開始し、中信地方における古墳時代から古代への社会的動向を調査研究することとした。この展覧会では、当実習調査の中間成果を報告した。

会期：平成28(2016)年2月26日(金)～5月7日(土)

会場：國學院大學博物館ホール

責任担当者：深澤太郎(研究開発推進機構准教授)

協力：國學院大學考古学研究室

(4) 相互貸借特集展示

相互貸借特集展示Ⅱ「ともし火の系譜 —古代ランプからユダヤの祭具—」

西南学院大学博物館では、キリスト教の母体であるユダヤ教関係の資料を多数所蔵している。今回は、西南学院大学名誉教授である関谷定夫氏によって蒐集された資料の中から、イスラエルを中心に発掘された古代のランプと、ユダヤ教の祭具である燭台を紹介し、古代から現代にいたるともし火の系譜を示すとともに、遠いイスラエルの地で発展したユダヤの歴史や文化を身近に感じていただく機会とした。

会期：平成27(2015)年4月20日(月)～9月4日(金)

会場：國學院大學博物館ホール

責任担当者：内島美奈子(西南学院大学博物館学芸研究員)・安高啓明(熊本大学文学部准教授・國學院大學研究開発推進機構共同研究員)

協力：日本ユダヤ教団

出版物：内島美奈子 編著 展示リーフレット『相互貸借特集展示Ⅱ(西南学院大学博物館所蔵資料)「ともし火の系譜 —古代ランプからユダヤの祭具—』、國學院大學博物館、平成27(2015)年4月20日発行、全4頁。

関連イベント：ワークショップ「世界の宗教を知る」第1回 ユダヤ教「シャローム! —ユダヤ教の習慣と儀礼を学ぶ—」、日時：平成27(2015)年8月28日(金)16:00～19:30、講師：デイビッド・キューニン(日本ユダヤ教団・ラビ)、陣内理良(当館学芸員)。ミュージアムトーク「ともし火の系譜 —古代ランプからユダヤの祭具—」、日時：平成27(2015)年9月4日(金)14:30～15:00、解説：内島美奈子(西南学院大学博物館学芸研究員)。

相互貸借特集展示Ⅲ「聖なる光 —魔鏡—」

「魔鏡」とは、鏡面に光を反射させると、鏡背面もしくは内部に鑄込まれた図像が写し出される鏡である。唐代に編まれた『古鏡記』には、前漢時代の照明鏡が「透光鏡」として記されており、日本では幕末から明治期に目立って製作された。エリザベス・サンダース・ホームの創立者である沢田美喜氏が発見し、隠れキリシタン遺物として公開された磔刑のキリスト像魔鏡は、西南学院大学所蔵鏡の同型鏡であり、最も世に知られている事例の一つである。今回は、服部和彦氏寄贈コレクションの魔鏡から7面を展示した。

会期：平成27(2015)年4月25日(土)～11月7日(土)

会場：西南学院大学博物館1階

責任担当者：内川隆志(國學院大學研究開発推進機構教授)

相互貸借特集展示Ⅳ「宗門人別改帳にみる近世社会」

キリスト教が禁止された近世日本では、キリスト教が日本に入ってくることを防ぐとともに、国内のキリシタンを取り締まるために様々な制度がつけられた。島原・天草一揆後、全国各地で宗門改が徹底

され、寺請制度も確立された。また、キリスト教の図像を踏ませてキリシタンではないことを証明させる絵踏や影踏が行われ、人口調査である人別改を兼ねて実施されたことから、宗門改を宗門人別改と呼ぶこともあった。今回は西南学院大学博物館が所蔵する五つの地域の宗門改帳を取り上げ、各地の宗門人別改帳を通して、幕府や藩の禁教政策の実態について地域性を含めながら紹介した。

会期：平成27(2015)年9月5日(土)～12月23日(水)

会場：國學院大學博物館ホール

責任担当者：内島美奈子(西南学院大学博物館学芸研究員)・安高啓明(熊本大学文学部准教授・國學院大學研究開発推進機構共同研究員)

出版物：内島美奈子・安高啓明 編著 展示リーフレット『相互貸借特集展示Ⅵ(西南学院大学博物館所蔵資料)「宗門人別改帳にみる近世社会」』、國學院大学博物館、平成27(2015)年9月5日発行、全4頁。

関連イベント：ミュージアムトーク [1]「シーボルトが見た禁教政策」、日時：平成27(2015)年12月12日(土) 11:00～11:30、解説：野藤 妙(西南学院大学博物館学芸研究員)。同 [2]「絵踏と宗門改」日時：平成27(2015)年12月12日(土) 15:00～15:30、解説：安高啓明(熊本大学文学部准教授・國學院大學研究開発推進機構共同研究員)。

相互貸借特集展示Ⅴ「イト・ナの東 一いくつもの弥生文化一」

北部九州において、イト国やナ国の王たちが割拠していた弥生時代。日本列島の中には、いまだ社会階層の著しい分化を見せていなかった地域もあった。この展示では、九州以東の弥生土器と、列島各地で用いられた財の姿を通して、弥生文化の多様性を概観した。

会期：平成27(2015)年11月18日(水)～平成28(2016)年2月15日(月)

会場：西南学院大学博物館1階

責任担当者：深澤太郎(研究開発推進機構准教授)

関連イベント：ミュージアムトーク「イト・ナの東 一いくつもの弥生文化一」、日時：平成27(2015)年11月18日(水) 15:30～16:30、解説：柳田康雄(國學院大學研究開発推進機構客員教授)。

相互貸借特集展示Ⅵ「異国イメージⅠ 一紅毛人から阿蘭陀人へ一」

近世日本は、幕府の禁教政策により、出島でオランダ人、唐人屋敷で中国人が生活していた。制限された空間のなかで、それぞれの営みがあり、日本でありながらそこには異国文化が広がっていた。また、彼らは日本人の興味の対象となっており、多くの美術工芸品が創出された。そこで、本展覧会では、近世日本に滞在を許されたオランダ人を日本人がどうとらえていたのか。また、開国により日本人のなかでどのような対外的認識が芽生えたのかについて紹介した。

会期：平成28(2016)年1月8日(金)～4月23日(土)

会場：國學院大學博物館ホール

責任担当者：内島美奈子(西南学院大学博物館学芸研究員)・安高啓明(熊本大学文学部准教授・國學院大學研究開発推進機構共同研究員)

出版物：内島美奈子・安高啓明 編著 展示リーフレット『相互貸借特集展示Ⅳ(西南学院大学博物館

所蔵資料)「異国イメージⅠ—紅毛人から阿蘭陀人へ—」、國學院大学博物館、平成28(2016)年1月8日発行、全4頁。

関連イベント：ミュージアムトーク[1]「展示解説」、日時：平成28(2016)年4月23日(土)14:00～14:30、解説：安高啓明(熊本大学文学部准教授・國學院大學研究開発推進機構共同研究員)。

相互貸借特集展示Ⅶ「天神人形—各地の天神さま—」

菅原道真公は「天神さま」とも称され、学問の神様として親しまれている。天神さまの姿に絵の描かれるとともに、全国各地で民具として天神人形が作られ、姿・材質も様々である。そのような天神人形を神道史学者の宮地直一氏旧蔵資料の中から紹介した。

会期：平成28(2016)年2月15日(月)～平成28(2016)年5月25日(水)

会場：西南学院大学博物館 1階廊下

責任担当者：吉永博彰(研究開発推進機構PD研究員)・網谷哲成(当館学芸員)

関連イベント：ミュージアムトーク「天神人形—各地の天神さま—」、日時：平成28(2016)年5月25日(水)15:30～16:30、解説：大東敬明(國學院大學研究開発推進機構准教授)。

(5) その他

貴重資料レプリカ展示

歴史的価値だけでなく、美術性も併せ持った縄文・弥生時代の遺物や神道関連資料等のレプリカ展示を通して、日本文化、歴史、精神性に思いを馳せ、レプリカの本物を展示している國學院大學博物館に興味を持っていただくことを目的に、当館所蔵の貴重資料レプリカを、専用の展示ケースを設え、オフィスビルや商業ビル等のエントランスやフリースペースなどに展示した。

展示(1) 渋谷ヒカリエ

期間：平成27(2015)年9月3日(木)～10月31日(土)

場所：渋谷ヒカリエ(東京都渋谷区渋谷)8階

展示(2) 天童市西沼田遺跡公園

期間：平成27(2015)年12月23日(水)～平成28(2016)年2月16日(火)

場所：天童市西沼田遺跡公園(山形県天童市大字矢野目)

2 教育普及

月日	摘要	内容	会場 講師 他
5/2	ミュージアムトーク	まつりを読みとく	会場：國學院大學博物館 講師：大東敬明（國學院大學准教授）
5/16	ミュージアムトーク	企画展「収蔵品展」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：大東敬明（國學院大學准教授）、石井匠（國學院大學博物館学芸員）
6/13	ミュージアムトーク	企画展「教派神道の教祖と儀礼」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：教派神道教団と「神道」—國學院大學とのかかわりから— 講師：中山郁（國學院大學准教授）
6/20	ミュージアムトーク	企画展「教派神道の教祖と儀礼」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：教派神道の創始者は教祖か？ 講師：井上順孝（國學院大學教授）
7/10	ミュージアムトーク	企画展「平成27年度國學院大學学びへの誘い 明治国家と法制官僚 —井上毅歿後 120 年記念—」プロガー内覧会 ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：齊藤智朗（國學院大學准教授）
7/18	ミュージアムトーク	企画展「平成27年度國學院大學学びへの誘い 明治国家と法制官僚 —井上毅歿後 120 年記念—」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：齊藤智朗（國學院大學准教授）
7/25, 26	ワークショップ	夏休み特別ワークショップ「縄文土器づくり」 ※	会場：白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、國學院大學博物館他 講師：粕谷崇（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員）、岡田謙一（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館文化財担当学芸員）、内川隆志（國學院大學教授） 主催：國學院大學博物館、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 参加人数：29名
8/2	ワークショップ	夏休み特別ワークショップ「探検！ミュージアム」 ※	会場：白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、國學院大學博物館 講師：粕谷崇（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員）、服部比呂美（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員）、内川隆志（國學院大學教授）、高野裕基（國學院大學助教（特別専任））、陣内理良（國學院大學博物館学芸員）、石井匠（國學院大學博物館学芸員） 主催：國學院大學博物館、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 参加人数：19名
8/7	ワークショップ	体感！ 浮世絵摺り実演・体験会 ※	会場：國學院大學多目的ホール 講師：公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団 主催：國學院大學博物館 共催：公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団 協力：太田記念美術館、山種美術館 参加人数：69名
8/7	ワークショップ	夕涼み浮世絵講座 ※	会場：國學院大學常磐松ホール 講師：日野原健司（太田記念美術館主席学芸員）「ブームとしての妖怪、アートとしての妖怪」、藤澤紫（國學院大學教授（特別専任））「こんなに面白い江戸の幽霊画」 主催：國學院大學博物館 共催：公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団 協力：太田記念美術館、山種美術館 参加人数：110名

8/8, 9	ワークショップ	夏休み特別ワークショップ「勾玉づくり」 ※	会場：白根記念渋谷区郷土博物館・文学館、國學院大學博物館 講師：松井圭太（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員）、粕谷崇（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員）、内川隆志（國學院大學教授） 主催：國學院大學博物館、白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 参加人数：113名
8/28	ワークショップ	「世界の宗教を知る」ワークショップ 第1回 ユダヤ教「シャローム！—ユダヤ教の習慣と儀礼を学ぶ—」 ※	会場：國學院大學博物館、日本ユダヤ協会 講師：David Kunin（日本ユダヤ教団ラビ）、陣内理良（國學院大學博物館学芸員） 主催：國學院大學博物館 協力：日本ユダヤ協会、西南学院大学博物館 参加人数：24名
9/4	ミュージアムトーク	相互貸借特集展示Ⅱ「ともし火の系譜—古代ランプからユダヤの祭具—」 ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：ともし火の系譜—古代ランプからユダヤの祭具— 講師：内島美奈子（西南学院大学博物館学芸研究員）
9/5	フォーラム	美術文化フォーラム1「琳派400年記念 琳派—受け継がれる美の系譜」 ※	会場：國學院大學常磐松ホール 講師：山崎妙子（山種美術館館長）「琳派400年記念 琳派と秋の彩り」、中島千波（日本画家・東京藝術大学名誉教授）「琳派—日本人の原点—宗達・光琳に繋がる近・現代の日本画—」、藤澤紫（國學院大學教授（特別専任））「琳派とやまと絵—雅と粋のデザイン文化—」 主催：國學院大學博物館、山種美術館 参加人数：230名
9/5	ミュージアムトーク	企画展<SHIBUYA>ミュージアムトーク ※	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：秋野淳一（國學院大學研究開発推進機構 PD 研究員）
9/12	ミュージアムトーク	企画展<SHIBUYA>ミュージアムトーク ※	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：石井匠（國學院大學博物館学芸員）
9/26	ミュージアムトーク	企画展<SHIBUYA>ミュージアムトーク ※	会場：國學院大學博物館 テーマ：「オリンピック前後の渋谷」 講師：上山和雄（國學院大學教授）
10/4	ワークショップ	「世界の宗教を知る」ワークショップ 第2回 イスラム教「アッサラーム・アレイクム！—渋谷のモスクでムスリム文化にふれる—」 ※	会場：國學院大學博物館、東京ジャーミイ・トルコ文化センター 講師：アラス・ムハンメッド・ラーシット（東京ジャーミイ代表イマーム）、下山茂（東京ジャーミイ） 主催：國學院大學博物館 協力：東京ジャーミイ・トルコ文化センター 参加人数：26名
10/10	ミュージアムトーク	特別展「江戸のベストセラー『唐詩選』の世界」 ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：赤井益久（國學院大學学長）
10/17	ミュージアムトーク	特別展「江戸のベストセラー『唐詩選』の世界」 ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：赤井益久（國學院大學学長）
	ミュージアムトーク	特別展「江戸のベストセラー『唐詩選』の世界」 ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：赤井益久（國學院大學学長）
10/18	ワークショップ	「世界の宗教を知る」ワークショップ 第3回 修験道「お山は晴天、六根清浄！—相模大山修験道の道を歩く—」 ※	会場：國學院大學、大山阿夫利神社、山荘だいてう 講師：深澤太郎（國學院大學准教授）、網谷哲成（國學院大學博物館学芸員）、天田顕徳（研究開発推進機構研究補助員）、尾上周平（大学院文学研究科博士課程前期）。主催：國學院大學博物館 協力：大山阿夫利神社 参加人数：25名
10/25	ワークショップ	「世界の宗教を知る」ワークショップ 第4回 道教「急急如律令！—横浜の道教寺院をめぐる—」 ※	会場：國學院大學博物館、横浜関帝廟、横浜媽祖廟 講師：網谷哲成（國學院大學博物館学芸員） 主催：國學院大學博物館、協力：横浜関帝廟、横浜媽祖廟 参加人数：24名

11/14	フォーラム	美術文化フォーラム2「村上華岳と京都、そして日本文化へ」第1部フォーラム ※	会場：國學院大學常磐松ホール 山崎妙子（山種美術館館長）「村上華岳—京都画壇の画家たち」、上村淳之（日本画家、公益財団法人 松伯美術館館長）「祖母・松園と父・松篁」、笹生衛（國學院大學博物館館長）「日本文化の源泉と信仰—神仏信仰の変容と日本の精神性の形成—」主催：國學院大學博物館、山種美術館 参加人数：230名
	コンサート	美術文化フォーラム2「村上華岳と京都、そして日本文化へ」第2部 クラリネットコンサート～美術と音楽の調べ～ ※	会場：國學院大學常磐松ホール 演奏：吉田誠（クラリネット奏者）企画・構成：瀧井敬子（音楽学者、音楽プロデューサー）主催：國學院大學博物館、山種美術館 参加人数：205名
11/18	ミュージアムトーク	相互貸借特集展示V「イト・ナの東—いくつもの弥生文化—」ミュージアムトーク	会場：西南学院大学博物館 テーマ：イト・ナの東—いくつもの弥生文化— 講師：柳田康雄（國學院大學研究開発推進機構客員教授）
11/21	ワークショップ	平成27年度渋谷学研究会ワークショップ まち歩き「渋谷の記憶を辿る～常磐松界限を歩く～」 ※	会場：渋谷名所各所 案内人：飯倉義之（國學院大學准教授）、服部比呂美（白根記念渋谷区郷土博物館・文学館学芸員）主催：國學院大學渋谷学研究会、國學院大學博物館 共催：白根記念渋谷区郷土博物館・文学館 参加人数：30名
	ミュージアムトーク	企画展「神仏・異類・人—奈良絵本・絵巻にみる怪異—」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：針本正行（國學院大學教授）
12/12	ミュージアムトーク	相互貸借特集展示IV「宗門人別改帳にみる近世社会」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：シーボルトが見た禁教政策 講師：野藤妙（西南学院大学博物館学芸研究員）
		相互貸借特集展示IV「宗門人別改帳にみる近世社会」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：絵踏と宗門改 講師：安高啓明（熊本大学文学部准教授、國學院大學研究開発推進機構共同研究員）
	シンポジウム	國學院大學博物館 国際シンポジウム・ワークショップ2015「博物館の国際的ネットワーク形成と日本文化研究」12日 国際シンポジウム ※	会場：國學院大學常磐松ホール パネリスト他：マティ・フォラー〈オランダ：ライデン国立民族学博物館〉、サイモン・ケイナー〈イギリス：セインズベリー日本藝術研究所〉、ミシェル・モキユエール〈フランス：ギメ美術館〉、アン・ニシムラ・モース〈アメリカ：ボストン美術館〉、アレクサンダー・シニーツィン〈ロシア：ピョートル大帝記念人類学・民族学博物館 [クストカメラ]〉 コメンテーター：井上洋一〈東京国立博物館〉 司会：中牧弘允〈吹田市立博物館、国立民族学博物館〉 主催：國學院大學博物館 後援：日本経済新聞社、日仏会館・フランス日本研究センター、全日本博物館学会、渋谷区 参加人数：138名
12/13	ワークショップ	國學院大學博物館 国際シンポジウム・ワークショップ2015「博物館の国際的ネットワーク形成と日本文化研究」13日 ワークショップ ※	会場：國學院大學常磐松ホール パネリスト他：イローナ・パウシュ〈東京大学〉、クリストフ・マルケ〈フランス：国立東洋言語文化大学、日仏会館〉、ヨハネス・ヴィーニンガー〈オーストリア：オーストリア応用美術博物館〉、内川隆志〈國學院大學〉、岡崎礼奈〈東洋文庫〉、三宅秀和〈永青文庫〉、宮崎克則〈西南学院大学〉、山崎妙子〈山種美術館〉 司会：笹生衛〈國學院大學博物館〉 後援：日本経済新聞社、日仏会館・フランス日本研究センター、全日本博物館学会、渋谷区 参加人数：105名
12/19	ミュージアムトーク	企画展「神仏・異類・人—奈良絵本・絵巻にみる怪異—」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：荒木優也（國學院大學兼任講師、國學院大學研究開発推進機構PD研究員）
1/9	ミュージアムトーク	企画展「神仏・異類・人—奈良絵本・絵巻にみる怪異—」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講師：荒木優也（國學院大學兼任講師、國學院大學研究開発推進機構PD研究員）

1/23	ミュージアム トーク	企画展「神仏・異類・人 —奈良絵 本・絵巻にみる怪異—」ミュージア ムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講 師：大東敬明（國學院大學准教授）
1/24	ワークショップ	ワークショップ 「妖怪絵巻をつく ろう！」	会場：國學院大學博物館 講師：渡邊卓（國學院大學 助教） 主催：國學院大學博物館 参加人数：46名
2/13	ミュージアム トーク	企画展「花鳥風月 柄鏡の美～服部 和彦氏寄贈コレクションを中心とし て～」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 講師：内川隆志（國學院 大學教授）
3/5	ミュージアム トーク	企画展「花鳥風月 柄鏡の美～服部 和彦氏寄贈コレクションを中心とし て～」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 講師：内川隆志（國學院 大學教授）
3/26	ミュージアム トーク	企画展「中世の古文書をよむ～國學 院大學所蔵の重要文化財「久我家文 書」を展示～」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：國學院大學所蔵 の中世文書 講師：千々和到（國學院大學教授（特 別専任））
4/9	ミュージアム トーク	企画展「中世の古文書をよむ～國學 院大學所蔵の重要文化財「久我家文 書」を展示～」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：信長・秀吉の古 文書 講師：堀越祐一（國學院大學兼任講師、 國學院大學研究開発推進機構客員研究員）
4/23	ミュージアム トーク	相互貸借特集展示Ⅵ 「異国イメージⅠ —紅毛人から阿蘭 陀人へ—」ミュージアムトーク	会場：國學院大學博物館 テーマ：展示解説 講 師：安高啓明（熊本大学文学部准教授、國學院大學 研究開発推進機構共同研究員）
5/25	ミュージアム トーク	相互貸借特集展示Ⅶ 「天神人形 —各地の天神さま—」 ミュージアムトーク	会場：西南学院大学博物館 テーマ：天神人形—各 地の天神さま— 講師：大東敬明（國學院大學准教 授）

※印：平成27年度文化庁「地域の核となる美術館・歴史博
物館支援事業」「東京・渋谷から日本の文化を国際発信す
るミュージアム連携事業」実施イベント

講師所属は平成27年度現在

第Ⅳ章 刊行物

1 定期刊行物

『國學院大學博物館研究報告』第32輯 昭和60(1985)年に創刊された『國學院大學考古学資料館紀要』を前身としており、平成25(2013)年度より『國學院大學学術資料センター研究報告』、平成27(2015)年度より現在のタイトルに変更した。当館教職員の論考や、調査研究事業の成果などを掲載。A4版。178頁。1,500部発行。

目次：吉田恵二先生略年譜、【研究報告】阿部常樹「下沼部貝塚出土の動物遺体群の分析」、深澤太郎「『伊豆峯』の考古学—伊豆修験の形成と展開—」、鳥越多工摩「用水の管理と「塚樋方」—東京都多摩地域の用水普請を中心として—」、伊藤大祐「折口信夫歌舞伎絵葉書と雑誌「演劇写真帖」の関係についての考察」、【研究ノート】尾上周平「陸奥金華山の宗教空間—近世・近代における絵図面等の比較検討を通して—」、【調査報告】深澤太郎・林大貴・植田真「伊豆国賀茂郡心檀堂之岩屋—伊豆峯辺路における修験窟の3次元測量—」、【資料紹介】北澤宏明「山口県山口市美濃ヶ浜遺跡出土資料」、【年報】『平成26(2014)年度 國學院大學博物館・学術資料センター年報』

発行日：平成28(2016)年3月18日

発行：國學院大學学術資料センター

印刷：株式会社丸井工文社

『國學院大學神道資料館 館報』第15号 平成13(2001)年の創刊。旧神道資料館以来、館蔵品の紹介や、神道文化に関する小論考などを掲載する媒体として活用している。A4版。44頁。800部発行。

目次：ごあいさつ、「御旅所祭祀」(岡田莊司)、「『香取神宮神幸祭絵巻』とその諸本」(笹生衛)、「香取神宮の神社組織と『香取神宮神幸祭絵巻』」(吉永博彰)、「江戸の祭—天下祭と天王祭—」(大東敬明)、「『香取神宮神幸祭絵巻』を歩く」(木村大樹)

発行日：平成28(2016)年2月29日

発行：國學院大學学術資料センター 神道資料館部門

印刷：(株)秀飯舎

2 図録

『江戸のベストセラー『唐詩選』の世界』 今年度の特別展『江戸のベストセラー『唐詩選』の世界』の展示図録である。A4版。全44頁。3000部発行。

目次：趣旨、第1章：漢籍とはなにか、第2章：室町期以降の唐詩関係の出版物、第3章：江戸のベストセラー『唐詩選』、付録・余滴（狂詩・画本・かるた等）

編集：赤井益久（國學院大學学長・文学部教授）・有木大輔（筑波大学附属駒場高校教諭）・石村貴博（専修大学兼任講師）・古山悟由（國學院大學学術メディアセンター事務部次長・図書館事務課長）・佐川繭子（國學院大學教育開発推進機構准教授）・鈴木崇義（國學院大學教育開発推進機構准教授）編著

発行日：平成27（2015）年10月31日

発行：國學院大學博物館

印刷：（株）秀飯舎

3 報告書

『東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業 報告書』平成27年度文化庁芸術振興費補助金「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択された「東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム連携事業」の成果報告書である。A4版。59頁。1000部発行。

目次：はじめに、本報告書について、國學院大學博物館について、東京・渋谷から日本の文化を国際発信する、ミュージアム連携事業について、実施事業報告、平成27年度実施事業一覧

発行日：平成28（2016）年3月1日

発行：國學院大學博物館 地域協働連携事業実行委員会・國學院大學

印刷：（株）秀飯舎

統計資料

(1) 平成27年度 開館日数等

① 開館日数・時間

開館期間：313日（休館：53日）／開館時間 午前10時から午後6時（入館は5時半まで）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館	28	27	30	30	16	27	31	26	22	21	27	28	313
休館	2	4	0	1	15	3	0	4	9	10	2	3	53

② 入館者数・前年度比増減

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度 入館者数	2600	2910	4211	5508	3689	4075	5249	4267	3531	2785	2908	3024	44757
前年度 入館者数	2327	2240	2595	3799	2416	2102	4102	3040	1368	1364	1347	1717	28417
前年度比	273	670	1616	1709	1273	1973	1147	1227	2163	1421	1561	1307	16340

③ 特別展・企画展入場者数

特別・企画展名	会期	入館者数	備考
第1回特別展 江戸のベストセラー『唐詩選』 の世界	平成27(2015)年10月3日(土)～ 11月15日(日)	43日 (内休館1日)	7,717
第1回企画展 収蔵品展	平成27(2015)年4月13日(月)～ 5月17日(日)	30日 (内休館5日)	3,345
第2回企画展 教派神道の教祖と儀礼	平成27(2015)年6月1日(月)～ 6月30日(火)	30日 (内休館無し)	4,211
第3回企画展 國學院大學学びへの誘い 明治国家と法制官僚 —井上毅歿後120年記念—	平成27(2015)年7月11日(土)～ 8月7日(金)	26日 (内休館2日)	5,193
第4回企画展 <SHIBUYA>	平成27(2015)年8月22日(土)～ 9月30日(水)	35日 (内休館5日)	6,757
第5回企画展 神仏・異類・人 —奈良絵本・絵巻にみる怪異—	平成27(2015)年11月15日(土)～ 平成28(2016)年2月7日(金)	60日 (内休館19日)	8,932
第6回企画展 花鳥風月 柄鏡の美 ～服部和彦氏 寄贈コレクションを中心として～	平成28(2016)年2月11日(木・祝) ～3月13日(日)	31日 (内休館1日)	2,933
第7回企画展 中世の古文書をよむ ～國學院大 學所蔵の重要文化財「久我家文 書」を展示～	平成28(2016)年3月19日(土)～ 4月17日(日)	30日 (内休館無し)	4,414 平成28年度17日間 2,879名 含む

(2) 受贈図書

- 旭川市科学館：『旭川市博物館研究報告』第21号、『旭川市科学館研究報告』第10号、『旭川市博物館報』vol. 21、『旭川市科学館報』vol. 6
- 帯広大谷短期大学：『帯広大谷短期大学地域連携推進センター紀要』第1号
- 斜里町立知床博物館：『知床博物館研究報告』第27集、『知床博物館研究報告』第37集
- 一般財団法人北方文化振興協会：『第29回北方民族文化シンポジウム網走報告 環境変化と先住民の生業文化—開発と適応—』
- 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構：『木と生きる—アイヌのくらしと木の造形—』
- 苫小牧市美術博物館：『苫小牧市美術博物館年報』第1号、『館報』11号、『苫小牧市美術博物館紀要』第1号
- 根室市歴史と自然の資料館：『根室市歴史と自然の資料館紀要』第27号
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館：『2013年度平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報』
- 北海道釧路市埋蔵文化財調査センター：『釧路市緑ヶ丘1遺跡・材木町3遺跡—貝塚材木町環状準幹線配水管布設工事用地内工事立会調査報告書—』
- 北海道立北方民族博物館：『年報』平成26年度、『北海道立北方民族博物館研究紀要』第24号、『北海道立北方民族博物館第30回特別展 森と川の精霊とともに—ロシア・アムール地方のアート&クラフト—』
- 青森県八戸市教育委員会：『八戸市埋蔵文化財調査報告書第149集 八戸市内遺跡発掘調査報告書』32、『八戸市埋蔵文化財調査報告書 第150集 白蛇遺跡—寺院建築に伴う発掘調査報告書—』、『八戸市埋蔵文化財調査報告書 第151集 史跡根城跡発掘調査報告書 X IV 岡前館第60地点—宅地造成に伴う発掘調査報告書—』
- 青森県立郷土館：『青森県立郷土館報』平成27年度版42号
- 八戸市博物館：『年報』第32号 平成26年度、『八戸市博物館研究紀要』第29号
- 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館：『是川縄文館年報』第4号、『研究紀要』第4号、『八戸市博物館収蔵資料目録 歴史編(9)—田村コレクション—西町屋文書寄贈目録Ⅲ』2015
- 岩沼市教育委員会：『岩沼市史(第4巻 資料編Ⅰ「考古」)』、『岩沼市史(第5巻 資料編Ⅱ「古代・中世」)』
- 鹽竈神社博物館：『鹽竈神社博物館開館50周年記念 鹽竈神社の刀剣』
- 仙台市博物館：『仙台市博物館調査報告』第35号、『仙台市博物館年報』第42号
- 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館：『東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館年報』6
- 秋田県立博物館：『秋田県立博物館研究報告』第40号、『秋田県立博物館年報』
- 東北芸術工科大学：『東北芸術工科大学紀要』第22号
- 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館：『第23回企画展 重要文化財水木田遺跡展』
- 山形大学附属博物館：『山形大学附属博物館報』41
- 米沢市上杉博物館：『米沢市上杉博物館年報』第27号、『特別展 米沢藩医家の系譜—堀内家文書を中心に—』、『特別展 国持大名上杉家』
- 白河市歴史民俗資料館：『特別企画展 松平定信とその時代—藩主定信をめぐる人とモノ—』
- 福島県立博物館：『福島県立博物館紀要』第29号
- 公益財団法人福島県文化振興財団・福島県文化財センター白河館：『福島県文化財センター白河館年報 2015』
- 石岡市教育委員会：『茨城県石岡市 東成井東原遺跡—H26県営畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査—』
- さしま郷土館ミュージズ：『合併10周年企画展 飯沼新田物語—水と苦闘の300年豊作を夢見た先人たち—』

- 土浦市立博物館：『土浦市立博物館年報』第26号、『土浦市立博物館紀要』第24号、『市制施行45周年記念・第38回企画展 取手の昭和時代—取手市誕生までの道のり—』
- 取手市埋蔵文化財センター：『市制施行45周年記念・第38回企画展 取手の昭和時代—取手市誕生までの道のり—』
- 日立市教育委員会：『茨城県日立市上の台遺跡発掘調査報告書 第2次調査』
- 栃木県立博物館：『栃木県立博物館調査研究報告書 佐貫洞穴遺跡—第2次発掘調査—』、『栃木県立博物館研究紀要—人文—』第32号、『第113回企画展「発掘された日本列島 2015」地域展示 栃木の考古学を築いた人々』
- 安中市学習の森ふるさと学習館：『学び舎に遺る郷土の歴史—造士館から安中小学校へ—』
- かみつけの里博物館：『第23回特別展 イノシシの考古学 豊穡の神か害獣か 縄文から平安時代—人の動物観を考える』
- 昭和三村教育委員会：『岩下清水古墳群Ⅱ—東京電力（株）送電線鉄塔建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』、『生越土橋遺跡—生越地区太陽光発電所建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 高崎市観音塚古墳資料館：『改訂版 観音塚古墳の世界』
- 朝霞市博物館：『朝霞市博物館調査報告書第7集 朝霞歴史年表』
- 春日部市郷土資料館：『新・春日部市施行10周年記念事業春日部市郷土資料館夏季展示（第51回）旅の途中でひとやすみ—江戸時代の旅と粕壁宿—』
- 川口市教育委員会：『市内遺跡発掘調査報告書（平成22年度調査）』、『市内遺跡発掘調査報告書（平成23年度調査）』、『市内遺跡発掘調査報告書（平成24年度調査）』
- 行田市郷土博物館：『行田市郷土博物館報』第18号、『行田市郷土博物館収蔵資料目録 福田家文書目録』、『第25回テーマ展 忍の街道をゆく—中山道・館林道・日光脇往還—』、『第29回企画展 相撲—いにしへの力士の姿—』
- 久喜市立郷土資料館：『第6回特別展 懐かしい道具たち—祭り・暮らし・米作りの道具—』
- 埼玉県深谷市教育委員会：『埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第136集 下郷遺跡Ⅷ』、『埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第137集 白山遺跡Ⅴ』、『埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第138集 上敷免北遺跡（第6次）』、『埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第140集 熊野遺跡XⅣ（第153次）』、『埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第141集 小前田古墳群（第2次）』
- 埼玉県立さきたま史跡の博物館：『館報』第10号、『埼玉県立史跡の博物館紀要』第8号
- 埼玉県立歴史と民俗の博物館：『特別展 戦国図鑑—Cool Basara Style—』
- さいたま市立博物館：『第27回企画展 桜～さいたまの桜の景観～』
- 白岡市教育委員会：『白岡市埋蔵文化財調査報告書第24集 沖山遺跡（第1地点）沖山西遺跡（第1・2・3地点）大町遺跡（第2地点）市内遺跡群発掘調査報告書XⅩⅡ』
- 戸田市立郷土博物館：『博物館・自然学習センターを活用した事例集』Ⅴ、『研究紀要』第25号、『市制施行40周年第22回特別展 時は、弥生から古代へ』、『第31回特別展 戸田ボートコース物語 ～オリンピックがやってきた！～』
- 立正大学博物館：『立正大学博物館年報』13、『立正大学の海外佛跡調査ティラウラコットからカラ・テベへ』、『梵音具—撫石庵コレクション—』
- 市立市川歴史博物館：『市立市川歴史博物館館報』平成25年度、『市立市川歴史博物館館報』平成26年度
- 国立歴史民俗博物館：『企画展示 大久保利通とその時代』、『くらしの植物苑特別企画 伝統の古典菊』
- 千葉県立中央博物館・千葉県立中央博物館分館海の博

- 博物館：『豊饒の房総 千葉県立中央博物館展示案内』
千葉県教育委員会：『千葉いまむかし』第28号
千葉県立郷土博物館：『研究紀要』第21号
野田市郷土博物館・市民会館：『野田市郷土博物館市民会館年報・紀要』第7号（2013年度）、『平成27年度特別展 生誕180年 押絵師勝文斎 ～野田にやってきた江戸・東京文化～』
船橋市飛ノ台史跡公園博物館：『第14回縄文コンテンツポラリー展 in 船橋 縄文の手・現代の手』
船橋市飛ノ台史跡公園博物館・船橋市郷土資料館：『平成25年度船橋市郷土資料館年報』、『船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館館報 みゅーじあむ・船橋』第3号、『船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館館報 みゅーじあむ・船橋』第4号、『飛ノ台史跡公園博物館紀要』第12号
公益財団法人成田文化財団：『平成26年度成田山文化財団年報』第6号
青山学院大学文学部史学研究室：『青山史学』第33号
足立区立郷土博物館：『足立区立郷土博物館紀要』第36号、『文化遺産調査特別展 美と知性の宝庫 足立一酒井包一・谷文晁とその弟子たち一』、『平成27年度特別展 スイーツランドあだち 一東京東部のお菓子づくり一』
出光美術館：『出光美術館館報』第170～172号、『出光美術館研究紀要』第20号
上野学園大学日本音楽史研究所：『岸辺成雄博士記念 第1回東洋音楽史研究国際シンポジウム「唐代音楽の研究と再現」資料集』
お茶の水女子大学：『博物館実習報告』第31号
温故学会：『温故叢誌九一翁青涌書』第69号
北区飛鳥山博物館：『平成27年度秋期企画展 都電残照 '67 一あるカメラマンが見届けた都電ラストラナー』
宮内庁書陵部：『書陵部紀要』第66号、『書陵部紀要』第66号（陵墓編）
昭和女子大学光葉博物館：『東欧の広場 海外都市広場調査21年間の足跡』、『昭和女子大学光葉博物館コレクション 日本の郷土玩具Ⅱ 一土一』
レクシオン
杉並区立郷土博物館分館：『平成27年度企画展 中西悟堂生誕120年 野帳の父、中西悟堂をめぐる人々』
すみだ郷土文化資料館：『すみだ郷土文化資料館年報一資料館の歩み一』創刊号 平成26年度、『終戦70年 平和祈念事業企画展 教育紙芝居の誕生』
大正大学：『けやき 大正大学学芸員課程年報』第19号（平成26年度）、『大正大学研究紀要』第100号
たばこと塩の博物館：『2014年度版 たばこと塩の博物館年報』第30号、『リニューアルオープン記念展 浮世絵と喫煙具 世界に誇るジャパニアート』、『隅田川をめぐる文化と産業 浮世絵と写真でみる江戸・東京』
玉川大学教育博物館：『玉川大学教育博物館年報』第13号、『紀要』第12号
多摩考古学研究会：『多摩考古』第45号
多摩美術大学美術館：『変化する様式 変わらない人間へのまなざし 小林裕児（1967-2015）』
東京家政学院生活文化博物館：『2015 東京家政学院生活文化博物館移管資料展（2）うっとり レース 一本の糸からつくる美空間一』
東京工芸大学：『Annual Report 2014 東京工芸大学 写大ギャラリー年報』
東京国立博物館：『東京国立博物館所蔵重要考古資料 学術調査報告書 国宝埴輪掛甲武人 重要文化財埴輪盛装女子 附埴輪盛装男子』
東京大学総合研究博物館：『考古資料に基づく旧人・新人の学習行動の実証的研究』5
東京大学埋蔵文化財調査室：『東京大学構内遺跡調査研究年報』9
東京都江戸東京博物館：『東京都江戸東京博物館紀要』第5号
東京都北区教育委員会：『文化財研究紀要別冊第24集 北区諸家文書目録3』
東京都教育委員会：『文化財の保護』第48号
東京都博物館協議会：『東京都博物館協議会会報』第

- 112号、第113号
- 東京農業大学「食と農」の博物館：『東京農業大学「食と農」の博物館年報』2010・2012・2013・2014年度
- 東洋大学：『東洋大学博物館学年報』第27号
- 新島村教育委員会・新島村博物館：『平成27年度 新島村博物館年報』
- 練馬区立上石神井公園ふるさと文化館：『蟬類博物館 一昆虫黄金期を築いた天才・加藤正世博士の世界一』、『なぞなぞ? ことばあそび!! 一江戸の判じ絵と練馬の地口絵一』
- 法政大学：『法政大学資格課程年報』Vol. 4 2014年度
- 御蔵島観光協会：『Mikurensis 一みくらしまの科学一』Vol. 4
- 三鷹市教育委員会：『三鷹市埋蔵文化財調査報告第35集 丸山遺跡BⅡ 東京都三鷹市井の頭丸山B遺跡における埋蔵文化財発掘調査報告書（第2次本発掘調査）』
- 三井記念美術館：『三井美術文化史論集』第8号、『特別展 蔵王権現と修験の秘宝』、『三井家の伝世の至宝』、『(別冊) 三井家伝世の至宝』
- 港区教育委員会：『港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告書 長門萩藩毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』、『港区近世寺院跡遺跡調査報告書 一不時発見寺院跡遺跡の発掘調査一』、『旧白金御料地遺跡確認調査報告書 一東京都庭園美術館改修工事に伴う事前調査一』
- 文京ふるさと歴史館：『平成26年度特別展 ふんきょうの樹木いま・むかし』
- 武蔵国分寺跡資料館：『国分寺市・坂戸市第1回合同企画展 東山道武蔵路を探る ～路でつながる古代の国分寺と坂戸～』
- 武蔵大学学芸員課程：『武蔵大学学芸員課程報告書』27号
- 武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館：『平成27年度第3回企画展 武蔵野市の歴史と文化財 ～蕨手刀から凱旋門まで～』
- 武蔵村山市立歴史民俗資料館：『平成27年度特別展解説書 “ヒバチヤ”田口家の火鉢』
- 明治大学：『下原・富士見町遺跡Ⅲ』
- 明治大学博物館：『明治大学博物館年報』2014年度
- 郵政博物館：『郵政博物館年報』
- 立教大学学校・社会教育講座：『ムゼイオン』第60号
- 早稲田大学：『早稲田文化 早稲田大学文化推進部年報』2014
- 早稲田大学會津八一記念博物館：『早稲田大学會津八一記念館研究紀要』第16号、『早稲田大学エジプト調査 50年のあゆみ』
- 一般社団法人切手の博物館：『切手の博物館研究紀要』第11号
- 一般社団法人日本宝くじ協会：『世界遺産年報』2016
- 公益財団法人台東区芸術文化財団：『公益財団法人台東区芸術文化財団紀要』第1号
- 公益財団法人日本博物館協会：『博物館研究』50（第5号）～（第7号）、第566号～第572号
- 小田原市郷土文化館：『小田原市郷土文化館研究報告』第51号
- 川崎市市民ミュージアム：『川崎市市民ミュージアム紀要』第27集
- 相模原市：『相模原市史ノート』第12号
- 相模原市立博物館：『津久井町史（通史編 近世・近代・現代）』
- 女子美術大学美術館：『女子美術大学美術館年報』第12号
- 茅ヶ崎市文化資料館：『文化資料館調査研究報告』24、『茅ヶ崎市文化資料館年報』平成25年度・平成26年度、『資料館叢書』13
- 日本大学生物資源科学部博物館：『博物館報』第24号、『うなぎプラネット「この地球で人とうなぎが末永く共存するために!」』
- 平塚市教育委員会：『平塚市埋蔵文化財緊急調査報告書17 通り西/北金目塚越』
- 平塚市博物館：『平塚市博物館研究報告 自然と文化』

- 第38号、『平塚市博物館年報』第38号
- 藤沢市教育委員会：『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書 第11巻 藤沢市都市計画事業北部第二（二地区）土地区画整理事業に伴う調査 古代7本文』、『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書第11巻 藤沢市都市計画事業北部第二（二地区）土地区画整理事業に伴う調査 古代7写真図版』
- 横須賀市自然・人文博物館：『横須賀市博物館研究報告（人文科学）』第59号・第60号、『横須賀市博物館報』第62号、『横須賀市博物館資料集』第39号、『横須賀製鉄所（造船所）創設150周年記念展 すべては製鉄所から始まった—Made in Japanの原点—』
- 横浜市歴史博物館：『横浜市歴史博物館調査研究報告』第11号、『歩いた・見た・調べた横浜市歴史博物館 民俗に親しむ会 鶴見川流域フィールドワーク調査報告』、『平成26年度「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業」年報』、『横浜市歴史博物館紀要』第19号、『横浜市歴史博物館資料目録』第23集、『蒔田の吉良氏—戦国まぼろしの蒔田城と姫君』、『大おにぎり展—出土資料からみた穀物の歴史—』、『鶴見川流域のくらし—生業・水運・信仰—』、『鶴見川流域の狛犬百態』、『鶴見川流域の狛犬百態』、『君も今日から考古学者！—横浜発掘物語 2015—』、『古代の仏教—博物館収集資料を中心に—』
- 公益財団法人帆船日本丸記念財団：『帆船日本丸記念財団 30年のあゆみ』
- 富山市科学博物館：『富山市科学博物館研究報告』第39号
- 石川県立歴史博物館：『石川県立歴史博物館紀要』第25号、『石川の歴史遺産セミナー講演録 第21～22回 加賀』
- 石川県輪島漆芸美術館：『紀要』第10号、『生新の時 2015 漆芸の未来を拓く』、『匠たちの変貌—戦後の漆芸の足跡』、『現代に蘇る大名婚礼調度品の華—菊蒔絵貝桶一式—』
- 金沢大学資料館：『資料館×埋蔵文化財センター平成27年度特別展 加賀藩与力武士のほまれ』
- 羽咋市教育委員会：『酒井・本江地区営ほ場整備事業（面的集積型）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 酒井ノギワ遺跡 酒井バンドウマエ遺跡』
- 山梨県立考古博物館：『第33回特別展 縄文の美—世界誇るJOMON芸術—』
- 飯田市美術博物館：『飯田市美術博物館研究紀要』第25号
- 辰野美術館：『創造の王国 魂に潜む神秘—日常に宿る表現』
- 茅野市八ヶ岳総合博物館・茅野市神長官守矢史料館：『諏訪上社造営』
- 茅野市八ヶ岳総合博物館・茅野市八ヶ岳麓文芸館：『紀要』第23号
- 長野市立博物館：『長野市立博物館紀要』第16号、『長野市立博物館収蔵資料目録 民俗2小正月関係資料』
- 松本市教育委員会：『松本市文化財調査報告書No. 214 長野県松本市新井遺跡—第2次発掘調査報告書—』、『松本市文化財調査報告書 No. 216 長野県松本市出川西遺跡—第10次発掘調査報告書—』、『松本市文化財調査報告書 No. 217 長野県松本市波田下原遺跡2・3 和田中西原遺跡2—発掘調査報告書—』、『松本市文化財調査報告書 No. 219 松本城大手門枳形跡—発掘調査報告書—』
- 松本市立博物館：『年報』2013、『松本市立博物館開館110周年記念特別展 博物館みつめる松本—収蔵品からよみがえる記憶』
- 海津市歴史民俗資料館：『海津市歴史民俗資料館報』平成26年度号
- 岐阜県博物館：『岐阜県博物館調査研究報告』第36号、『岐阜県博物館報』第38号、『特別展 天下人の時代—信長・秀吉・家康と美濃—』
- 伊豆の国市：『伊豆の国市文化財年報』1
- 伊東市教育委員会：『静岡県伊東市 伊豆石包丁場遺跡 確認調査報告書Ⅱ』
- 久能山東照宮博物館：『久能山東照宮博物館報』第22

- 号・第23号
- 静岡市立登呂博物館：『静岡市立登呂博物館館報』20
—平成24・25年度一、『特別展 登呂のいす展』
- 焼津市歴史民族資料館：『焼津市歴史民族資料館年報』
29
- 愛知大学東亜文書院大学記念センター：『同文書院記
念報』23号
- 安城市歴史博物館：『年報』第24号
- 新城市鳳来寺山自然科学博物館：『鳳来寺山自然科学
博物館館報』第44号
- 瀬戸蔵ミュージアム：『瀬戸蔵ミュージアム企画展
明治に生まれた華麗なるやきもの 石目焼』
- 豊橋市自然史博物館：『豊橋市自然史博物館年報』第
27号
- 南山大学博物館：『南山大学人類学博物館紀要』第34
号
- 皇學館大学研究開発推進センター：『皇學館大学研究
開発推進センター年報』第2号、『平成25年度 皇學
館大学研究開発推進センター紀要』第2号
- 三重県埋蔵文化財センター：『水と大地といにしへの
人びと ～松阪市朝見地区の発掘調査から～』
- 大津市教育委員会：『滋賀県指定無形民俗文化財 大津
曳山祭総合調査報告書』
- 滋賀県立安土城考古博物館：『平成26年度年報』
- 京都工芸繊維大学美術工芸資料館：『年報』22、『“做う”
から“創る”へ—京都高等工芸学校・京都市立美術
工芸学校の図案教育Ⅱ』、『京都と首里：二つの王都
—大学は宝箱！ 京都・大学ミュージアム連携出開帳
in 沖縄—』
- 大学共同利用期間法人人間文化研究機構・国際日本文
化研究センター：『日本研究』第51集
- 佛教大学法然仏教学研究センター：『佛教大学法然仏
教学研究センター紀要』第2号
- 公益財団法人泉屋博古館：『生誕150年記念展「住友春
翠」』
- 大阪大谷大学博物館：『大阪大谷大学博物館報告書 第
62冊 影印河内屋可正旧記1巻1・巻2・巻3(付翻刻)』
- 大阪大谷大学博物館学芸員課程：『大阪大谷大学博物
館学芸員課程年報』Vol. 15
- 大阪市立美術館：『大阪市立美術館紀要』第16号
- 大阪府立近つ飛鳥博物館：『大阪府立近つ飛鳥博物
館報』18、『平成27年度春季特別展 古代出雲とヤマ
ト政権 ～神話の国の考古学～』、『発掘された馬と
渡来人』、『平成27年度秋季特別展 ワカタケル大王
の時代 ～ヤマト王権の成熟と革新～』、『平成27年
度冬季特別展 歴史発掘おおさか2015—大阪府発掘
調査最新情報—』
- 大阪狭山市教育委員会：『狭山池築造一四〇〇年・狭
山藩誕生四〇〇年記念特別展 狭山藩北条氏 一戦国
大名 小田原北条五代の末裔—』
- 大阪府立狭山池博物館：『平成27年度特別展 近世狭山
池絵図—水下農民の狭山池改修史—』
- 大阪府立弥生文化博物館：『弥生文化博物館要覧』平
成25年度、『平成27年度春季特別展 一女王創出の現
象学— 卑弥呼』
- 大阪歴史博物館：『大阪歴史博物館年報』平成26年度、
『大阪歴史博物館研究紀要』第13号、『大阪歴史博物
館 館蔵資料集10—建築部材—』、『大阪歴史博物
館 館蔵資料集11—初代中村鴈治郎関係資料集—』
- かんさい・大学ミュージアム連携実行委員会事務局：
『かんさい・大学ミュージアムネットワーク連携展
大学の扉をひらく』
- 吹田市立博物館：『吹田市立博物館館報』15
- 関西学院大学博物館：『高精細画像による文化財研究
第4号 高精細画像でみる円山派の筆づかい』、『本
を彩る版画蔵書票を愛した男—蒐集家 原野賢吉の
軌跡—』
- 神戸市立博物館：『神戸市立博物館研究紀要』第31号、
『神戸市立博物館館蔵品目録 考古・歴史の部31』
- 公益財団法人黒川古文化研究所：『黒川古文化研究所
紀要 古文化研究』第14号、『研究図録シリーズ1
円山応挙の門人たち』

- 唐古・鍵考古ミュージアム：『平成27年度秋季企画展 弥生遺産Ⅲ ～唐古・鍵遺跡の石器～』
- 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館：『平成27年度 春季特別展 継体大王とヤマト』、『大和を掘る ―2014年度発掘調査速報展―』、『平成27年度秋季特別展 人のかたちの埴輪はなぜ創られたのか』
- 奈良市教育委員会：『南都出土中近世土器資料集 ―奈良町高天町遺跡(HJ第559次調査)出土資料―』、『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成22(2010)年度』、『奈良市埋蔵文化財調査年報 平成23(2011)年度』
- 田原本町教育委員会：『平成27年度春季企画展 たわらもと2015発掘速報展』
- 帝塚山大学考古学研究所：『帝塚山大学考古学研究所 研究報告』XⅦ、『帝塚山大学附属博物館報』X
- 御坊市教育委員会：『御坊市埋蔵文化財調査年報』平成24年度
- 和歌山県立自然博物館：『和歌山県立自然博物館館報』第32号
- 和歌山県立博物館：『和歌山県立博物館研究紀要』第21号、『平成27年度夏季特別展 近代スポーツと国民体育大会 ―紀の国わかやま国体・和歌山大会への道―』、『平成27年度秋季特別展 表千家と紀州徳川家』、『高野山開創1200年記念特別展 弘法大師と高野参詣』
- 和歌山市立博物館：『研究紀要』第30号
- 公益財団法人和歌山県文化財センター：『神前遺跡 ―秋月海南線道路改良に伴う発掘調査報告書―』、『立野遺跡 ―近畿自動車道紀勢線事業に伴う第2次発掘調査報告書―』、『井辺遺跡、神前遺跡 ―都市計画道路松島本渡線(神前南)道路改良工事に伴う発掘調査報告書―』、『出塔の水道 ―山田川砂防工事に伴う発掘調査報告書―』、『立野遺跡 ―すさみ町公共施設移転事業に伴う発掘調査報告書―』、『日座遺跡、八丁田圃遺跡、塗屋遺跡、太古Ⅱ遺跡、稲成Ⅰ遺跡、安宅本城跡、田ノ口遺跡、岩崎大泓遺跡、岩崎大泓Ⅱ遺跡 ―近畿自動車道改良工事に伴う発掘調査報告書―』、『和田遺跡 ―秋月海南線道路改良に伴う発掘調査報告書―』、『和歌山城跡 ―和歌山地家簡裁庁舎建設に伴う発掘調査報告書―』、『公益財団法人和歌山県文化財センター年報』2014、『和歌山県内埋蔵文化財調査報告会資料集 ―地宝のひびき―』、『公開シンポジウム 紀中・紀南の旗頭 湯川氏の城・館・城下町』
- 鳥根県立古代出雲歴史博物館：『百八十神坐す出雲 ―古代社会を支えた神祭り―』
- 松江市史編集委員会：『松江市史(通史編1 自然環境・原子・古代)』
- 広島県立歴史博物館：『広島県立歴史博物館研究紀要』第17号
- 広島県立歴史民俗資料館(みよし風土記の丘ミュージアム)：『年報』第31号
- 山口県立山口博物館：『山口県立山口博物館研究報告』第41号、『山口県立山口博物館館報』第37号
- 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館：『徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告』第2号
- 徳島県立博物館：『みんなで作るユニバーサルミュージアム報告書』、『徳島県立博物館研究報告』第25号、『徳島県立博物館年報』第24号(平成26年度)、『徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報』第5号(平成26年度)、『瓦から見る古代の阿波―寺院と役所』、『阿波木偶箱まわしの世界 ―門付け、大道芸―』
- 徳島市立徳島城博物館：『徳島市立徳島城博物館年報』第23号(平成26年度)、『特別展 中国国分/四国国分 ―秀吉の天下取りと智将・蜂須賀正勝―』
- 公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター：『埋蔵文化財発掘調査報告書第185集 西条藩陣屋跡埋蔵文化財発掘調査報告書』、『埋蔵文化財発掘調査報告書第186集 御浜御殿Ⅳ(宇和島城跡)―天救園自歩道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』、『埋蔵文化財発掘調査報告書第187集 喜来遺跡2次埋蔵文化財発掘調査報告書』、『愛媛県埋蔵文化財センター研究紀要 紀要愛媛』第11号

- 高知県立歴史民俗資料館：『高知県立歴史民俗資料館年報』No. 23
- 春日市教育委員会：『春日市文化財調査報告書第71集 駿河D遺跡 —2次調査—』、『春日市文化財調査報告書第72集 日拝塚遺跡 —4・5・7次調査—』、『春日市文化財調査報告書第73集 寺田池北遺跡』、『春日市埋蔵文化財調査報告書第74集 駿河A遺跡 —1次調査—』、『春日市文化財年報』平成25年度
- 北九州市立松本清張記念館：『戦後70年特別企画展 清張と戦争 —読み継がれる体験と記憶』、『企画展 世界文学と清張文学』
- 西南学院大学博物館：『西南学院大学博物館年報』第7号、『西南学院大学博物館研究紀要』第3号、『南塩原市・西南学院大学博物館連携特別展 東西交流の軌跡 —有馬とヨーロッパの出会い—』、『2015年度春秋特別展 南蛮 —NAMBAN-昇華した芸術—』
- 筑紫野市歴史博物館：『筑紫野市歴史博物館年報』15（平成25年度）
- 行橋市歴史資料館：『福岡県稲童古墳群出土品』国重要文化財指定記念 H27 行橋市歴史資料館特別展 稲童古墳群展』、『平成27年度行橋市歴史資料館企画展 発掘された港町 —延永ヤヨミ園遺跡—』
- 佐賀県立名護屋城博物館：『研究紀要』第21集
- 長崎純心大学博物館：『長崎純心大学長崎学研究所』第13編
- 長崎歴史文化博物館：『長崎歴史文化博物館10周年記念誌 活動でふりかえる10年の歩み 2005～2015』
- 大分県立歴史博物館：『大分県仏教美術調査報告1 妙満寺の法物』、『大分県仏教美術調査報告2 中根家資料(医事関係資料)1』、『大分県立歴史博物館年報』2014、『大分県立歴史博物館研究紀要』第16号
- 九州保健福祉大学：『九州保健福祉大学博物館学年報』4
- ミュージアム知覧：『ミュージアム知覧紀要・館報』第14号
- Henrich Editionen：『GERMANIA』2013
- 文化財修理技術保存連盟：『平成28年版 文化財建造物保存技術資料集』
- 株式会社パスコ：『東京都練馬区 扇山遺跡第6次調査報告書 —石神井台4丁目マンション建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 特定非営利活動法人工芸文化研究所：『文化財と技術』第7号
- 有限会社宮塚文化財研究所：『東京都練馬区 北新井遺跡集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 加藤建設株式会社文化財調査部：『東京都北区 田端不動坂遺跡 —田端1丁目22番地点（仮称）田端聖華保育園新築工事に伴う埋蔵文化財調査—』
- 大成エンジニアリング株式会社：『東京都足立区花畑遺跡Ⅱ —足立区保木間5-38地内の開発工事に伴う発掘調査—』
- 国際文化財株式会社：『東京都新宿区 南元町遺跡Ⅲ（永井家屋敷地跡・伊賀者給地元鮫河橋仲町・同表町跡）—集合住宅新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—』
- 株式会社Acube：『三鷹市埋蔵文化財調査報告 第36集 滝坂遺跡Ⅳ —東京都三鷹市中原 滝坂遺跡発掘調査報告書』
- 共和開発株式会社：『常陸下館藩石川家屋敷遺跡発掘調査報告書』

執筆要領 別表第一

種目	頁数	
(一) 研究報告	20頁以内。	日本語要旨、英語要旨、図表を含む。
(二) 研究ノート	10頁以内。	日本語要旨、英語要旨、図表を含む。
(三) 事業報告	20頁以内。	図表を含む。
(四) 資料・史料紹介	10頁以内。	図表を含む。
(五) 講演録	20頁以内。	図表を含む。
(六) 書評	4頁以内。	図表を含む。
(七) 年報	—	図表を含む。

執筆要領 別表第二

使用言語	・原則として日本語、若しくは英語、中国語、韓国語に限る。	
版型	・A4版(天地297mm×左右210mm)。横組み。本文段組なし。	
版面	・天地230mm×左右150mm(余白:天30mm・地37mm、ノド35mm・小口25mm)。	
文字	本文	・明朝、9pt。縦46字×横36行。 ※縦書きについては別に定める。
	論文等題目(報告の章)	・明朝、18pt。2行取り。上下1行アケ。
	氏名・機関名	・明朝、12pt。1行取り。上下1行アケ。
	章見出し(報告の節)	・明朝、14pt。2行取り。上下1行アケ。
	節見出し(報告の項)	・明朝、12pt。1行取り。上下1行アケ。
	小見出しタイトル	・ゴチック、9pt。
	註・参考文献	・明朝、8pt。
	図表キャプション	・ゴチック、9pt。
	写真図版キャプション	・ゴチック、9pt。
	英数字・単位	・1文字は全角、2文字以上は半角。有効数字は揃えること。
画像	・300dpi以上。	
要旨	・使用言語に関わらず、和文要旨300字以内、英文要旨300語以内を添えること。	
キーワード	・使用言語に関わらず、和文・英文のキーワードを5つ以内添えること。	
参考文献	・引用文献の記載は以下の項目、順番とする。 雑誌掲載論文: 著者、「題目」『誌名』巻号、発行元(学会等)、掲載ページ、発行年。 書籍掲載論文: 著者、「題目」『書籍名』、発行元(出版社等)、掲載ページ、発行年。 書籍: 編著者、『書籍名』、発行元(出版社等)、発行年。	
文体	・原則として「である」調。	

平成29 (2017) 年 2 月28日発行

國學院大學博物館研究報告

第 33 輯

発 行 國學院大學博物館

〒150-8440 東京都渋谷区東4丁目10-28
TEL 03-5466-0359
<http://museum.kokugakuin.ac.jp>

印 刷 株式会社 秀飯舎

〒331-0058 埼玉県さいたま市西区飯田70
TEL 048-624-1121
<http://www.shuhansha.co.jp>

ISSN 2424-0117
